

委員からの質問・意見への回答（今回受付分）

（資料の見かた）

- 各委員が出された質問・意見は四角囲いの中に記入しています。
- 四角囲いの下に、長崎大学の回答を書いています。
- 回答者としては、長崎大学のほか、長崎県、長崎市となっています。

目 次

（1） 池田 文夫 委員提出	3
（2） 寺井 幹雄 委員提出	9
（3） 道津靖子委員・梶村龍太委員・神田京子委員 提出.....	11

(1) 池田 文夫 委員提出

1. これまでの協議会で「最速で12月21に着工」と言っていたのを、前回の協議会で河野学長が「12月21日着工」と最速での着工を表明した。そして学長、調学長特別補佐の両者は「住民の理解がなくても着工できる」という趣旨の発言をして、私の理解では着工後、「住民の合意と理解を得る」としている。

この発言について質問をする。

- ① 学術会議の提言で「新施設の提言に当たっては、地元自治体、地域住民とのコミュニケーションを準備段階からとり、十分な合意と理解と信頼を得つつ進める必要がある」と書いてあるが、大学は着工を表明したのは、この「得つつ」の拡大解釈である。

国立感染研の武蔵村山のBSL4は約30年も稼働しなかった。また現状も患者が出た場合の「検査」だけで、実質稼働はしていない。また理研のつくば市のBSL4施設はBSL2となっている。どうしてBSL4施設が実質稼働していないかは、国立感染研が事前の住民の合意を取らなかったから現在までこじれた。学術会議は施設を造っても稼働できないのは、事前に住民の合意を得て着工せず造ったためと反省したうえでの提言である。そうでなければ提言の意味がなくなる。

ゆえに学長、学長特別補佐の「住民の合意と理解がなくても着工できる」というのは、この学術会議の提言を無視した暴挙であり、12月21日着工をしても施設が完成して住民の合意が得られる保障は全くない。ゆえにアカデミックで学生に教える立場の大学は学術会議の提言を絶対に尊重すべきであり、12月21日着工は取り消して住民の合意と理解を得る努力を続けるべきである。

- ② 長崎大学長が住民の合意を得ずに着工を表明したことで、学術会議提言にある住民との信頼を失った。長崎大は地域との共生を強調しているが、これは大学が地域へのBSL4との強制を意味する。信頼を回復するには、着工を止めて、対話する事であると思うが大学の意見はどうか。

信頼を失った証拠は、地域住民で構成するBSL4施設の中止を求める自治会・市民連絡会が大学に着工表明後、抗議表明をし、また11月16日に地域住民が建設主体の長崎大とBSL4施設建設に同意した長崎県、長崎市を相手に取り差し止めを求める提訴をして裁判に持ち込んだ。国立大学が裁判で訴えられることは前代未聞である。住民の信頼を失ったこと、大学が裁判に訴えられたことについてどのように考えるか

2. 国はエボラウイルス等のもっとも危険度の高いウイルスを輸入しようと武蔵村山の住民に聞いて反対が多くて国は一回、引き下がった。長崎大のBSL4施設でも稼働する場合、当然、エボラなど危険の高いウイルスを輸入しないと、実験ができない。長崎大も輸入する際には住民の同意を得るはずだが、得るのかどうか。

3. 浦上の中の坂本キャンパスにBSL4施設の設置について

前回、河野学長が直接説明、内容は長崎医科大（長崎大の前身）でも多くの学生らが犠牲

になり、多大なダメージを受けたがそれでも、坂本キャンパスに造りたい—ということと言ったと解釈します。しかし長崎大が言う、熱研があり大学病院があって、インフラも整備されているというのは研究者の研究の都合でしかありません。しかし浦上の住民は、これまで説明したように、明治初期のキリシタン弾圧で多くの人が西日本一帯に流刑され、この苦しみは先祖から今でも語り継がれている。またこの地区は1945年8月9日、坂本隣接の松山に原爆が投下され今も多くの戦争被爆者がいて、放射線後遺症に苦しんでいる事実があり、この多くが核と人類は共存しないと訴え続けている。また落下中心地、原爆資料館、国立追悼館などがある。

そこで、BSL4施設が絶対の安全ではなく、大学もリスクゼロではないと言っているが、浦上地区の住民の多くがリスクゼロを求めて、反対をしており、私は、日本で一番、BSL4や原発などの施設を造るのに不適格な場所であると言える。万一、事故があると国の関与があってもどうしようもなく、ウイルスが広がる危険がある。大学が空気感染は可能性はないというが、万一の事故とはエボラなどのウイルスに感染した人間だけでなく、動物実験しているネズミやサルが施設外に飛び出したら大きく病気が蔓延すると言わざるをえない。これを可能性がほとんどないのでなく、絶対はないと言えるのか。住民は何でもではなく、エボラなど危険なものを扱うには絶対安全であることが条件である。

これに真摯に答えてください。

4. 考えられるリスクとは

調学長特別補佐は、考えられるリスクはすべて乗り越えられたと説明した。だが人間が考えられないのが想定外であり、福島原発事故も想定外であり今年も北海道で地震で北海道全体が停電したことも想定外、関西空港が台風で空港ほぼ全体近くが海水に埋まったことも想定外であり、人間が考えるリスク以上のことが次々に起こっている。ゆえに考えられるリスクをクリアしたから、安全であるとは言えず、いつ、坂本キャンパスも想定外の事故があるかわからないから、住宅密集地にBSL4を造るべきではない。

5. 風土病は現地で研究することが一番良い

長崎大はケニアに拠点を持っており、風立つライオンの柴田先生ら多く医師がここを拠点として、風土病につきあってきた歴史と財産〔地元の信頼など〕がある。また長崎大はこのBSL3施設を稼働させている。ケニアは治安もインフラも比較的良いと聞いており、南アフリカではBSL4を稼働をさせている。治安やインフラなどはケニアも南アフリカもさして変わりはなく、長崎大がケニアにBSL4を造らない原因は何か。簡単に説明せよ。

坂本なら研究者にとって便利であるのが坂本設置の理由であり、住民には何ら関係がないと言える。人財育成だったら今も多くが外国のBSL4施設で研究を続けてきている。確かに3・11の世界同時多発テロ以降外国では研究がしにくくなっている事実は認める。だが、反対の根強い坂本キャンパスよりもケニアに造った方がエボラなどの風土病の発生源に近く、対応はしやすい。アフリカ内で収めることが重要だ。万一、エボラなどの出た場合でも全国各都道府県に隔離病院があり、検査も国立感染研の武蔵村山で出来る。エボラなどのアフリカからの風土病の出る可能性のあるのは、交流人口の多い、東京、京都・大阪など

であり、長崎にも外国人の観光客は目立つがほとんど客船であり、寝泊まり客船であり、東京や京都などとは観光形態が異なる。エボラの危険は長崎ではなく、東京、京都の方だ。

6. 長崎県、長崎市へ

① 両者は国の関与があるから同意したと言うが、この場合の関与とは、万一の事故の際に国が責任をもって対応すると言うもの。これで同意したというのは、事故があるということ想定してのはずだが、どういう事故を想定しているのか。想定していないなら、国の関与もいなくなり、同意の理屈がなくなる。このことについて、県、市はどのような事故を想定しているのか。

いくら関与があっても、もしサルなどエボラに感染した動物が施設から逃げたら、もう国がいくら関与してもエボラが大流行する。国の関与がある一と言うだけでは納得できるはずがない。

② しつこく質問するが、県、市は国策に協力する見返りは全くないと言っているがこれを信じれというのは無理。私は約40年、新聞記者生活をしてきて、国策には大きな見返りがあったから地方自治体は協力してきた。見返りがなく人道的判断というが、これは普通はあり得ない。ありえない事をいうから提訴された理由のひとつになった。こんな見返りがある一というならBSL4施設に同意する住民も多くなると考えるが。私がおかしいのか、県と市は、見返りがなければBSL4に同意すべきではない。見返りがなければノー一というべきである。

③ 武蔵村山市の例を見ても市長がノーと言え、BSL4施設は稼働しない。これが約30年間、稼働されなかった原因だ。今部分的に検査だけの部分で稼働しているが、これはエボラの疑いのある患者が出て厚生労働大臣がわざわざ、武蔵村山市へ出向き、頭を下げたから武蔵村山市長は検査だけの稼働を許可させた（結果的に今までエボラではなかった）。このように住民の命を守る市長の権限は大きい。それなのに長崎県の場合、何で向こうから長崎に来ないで、わざわざ市長らが上京し、前にも説明した事故が起きた場合の「国の関与」があったからBSL4に合意した理由が分らない。国の関与は理論的に破壊された（事故が起きた後で国が関与しても、収束できにくい）。そこで長崎県知事、長崎市長は、BSL4に合意した根拠を分りやすく示せ、国の関与は完全に破壊された点を留意して答えよ。それから、今からでも遅くない。リスクゼロは、坂本キャンパスに造らせないことだ。市民、県民の命と財産を守るために住民の立場になってBSL4反対の考え、意思を示せ。

長崎県は交流人口、定住人口の多いのを政策に掲げているが、浦上地区は観光客、修学旅行客が非常に多い。また平野町から平和町、橋口町、岡町、上野町付近の山里小校区はマンション、一戸建ての住家などが次ぎ次ぎできて人気だ。これは交通の便がよいこと、そして山里小の学力の評価が高いなどだ。ほとんどの地区は学校の統廃合の対象になっているが、人口減の中で子供の数が減っているにも関わらず、山里小の児童の減少はわずかだ。だから私は冗談で「山里小校区は日本のビバリーヒルズだ」と言っているが、だがここにBSL4施設ができれば、今も事故が心配という人が多く、転居を考えている住民

もいる中、ここへの転居を尻ゴミしている家族も知っており、若い層の転入がBSL4を理由にして他の中央部へ行くケースが多いと予想される。「日本のビバリーリズと言えなくなる」というわけだ。

つまり、交流人口が、定住人口が減る可能性がある。これは長崎県、長崎市の政策に反する。「住民をまもるため」「交流、定住人口を増やす」ためにBSL4に反対する考えはないか、長崎県、長崎市は根拠を示して答えよ（つまり国の関与以外に）

（長崎大学の回答）

1について

BSL-4施設の設置に当たっては、ご指摘の日本学術会議の提言中「4 国内でのBSL-4施設建設の要件（2）地域住民の合意」において、「BSL-4施設の建設と運営には、地元自治体および隣接地域住民との信頼関係の確立が不可欠である。そのためには、準備段階から地元自治体と連絡を取りながら、地域住民を対象とした感染症やBSL-4施設に関するわかりやすい説明会や意見交換会の開催が必要である」等とされており、本学では本提言の内容を尊重しながら、地域住民の皆様にご理解を頂くための取組を行っておりますし、今後とも継続的に行ってまいります。

また、本学に対して情報開示に関する訴えがあった点については、係争中でありこの場でご回答することは差し控えさせていただきますが、本学としては、地域住民の声に謙虚に耳を傾けながら地域と共生するため、BSL-4施設の稼働前後を問わず、地域の方々に本計画をご理解いただくための取組を継続的に実施していきます。

2について

本学のBSL-4施設に特定一種病原体等を持ち込む際には、あらかじめ地域の方々にご説明しながら進めていくことが重要であると考えています。

3から5について

今回頂いたご質問については、既に書面において第16回資料6、第17回資料4、第18回資料3、第20回資料5-1及び第22回資料2-1の中でご回答しているとともに、第19回及び第22回においては、口頭での意見交換を行っております。今回頂いたご質問には、これまでの本学の回答は反映されておりませんので、上記過去の回答及び議事概要をご参照いただければ幸いです。

その上で、本学からの回答を踏まえて、新たなご質問等がございましたら、改めてご質問いただければ幸いです。

（長崎県の回答）

①について

事故については、万が一に備えての万全な対策が必要なことから、長崎大学に対して「世界最高水準の安全性の実現」のため、施設の設置・運営にあたっては安全性の確保に万全を期すことを要請したところであり、現在、長崎大学において、長崎大学が設置した専門家会議、国

が設置した第三者的な立場の専門家からなる監理委員会、さらに、この地域連絡協議会等における意見も踏まえ、その実現に向けて取り組んでいるところと認識しています。

②について

これまで第16回及び第20回地域連絡協議会でお答えしたとおり、国からの見返りを期待してのものではありません。

③について

国からは、国家プロジェクトとして推進し、世界最高水準の安全性を備えた施設の建設と安定的な運営、万一の事故といった緊急の場合も含めて必要な支援を行うことが明示され、さらに、長崎大学に対して、施設の安全性の確保について万全を期すこと、地域の理解促進のための取組を今後も継続して行うことなどを確認したうえで、地元自治体として、長崎大学の施設整備計画の事業化に協力することに合意したものです。

県としては、グローバル化の進展により国際的に脅威となっているエボラ出血熱などの感染症の海外からの流入が懸念される中、BSL4施設は、感染症に対する県民の安全・安心に資すると考えております。地域住民の方々の不安の声に対しては、今後も引き続き、この地域連絡協議会や住民説明会等の場で丁寧に説明していくことが重要だと考えております。

(長崎市の回答)

①について

国の関与については、万が一事故等が発生した場合の対応だけでなく、安全性の確保のための予算の確保や第三者の立場からチェックする仕組みの構築も含め、関係閣僚会議において文書で明確に示されました。

長崎大学では、国内法令、WHO、各国のガイドライン等に基づいて、十分な安全確保対策を図りながら設計等に取り組むとともに、文部科学省が設置している監理委員会などの意見も踏まえ、また、リスクアセスメントの結果に基づく対策を講じるなど、県市からの要請事項のうちの一つである「世界最高水準の安全性の実現」に向け取り組んでいるところです。

長崎市としても地元自治体として国に対し積極的な関与を要請するなど側面的な支援を行ってまいります。

②について

第16回及び第20回の地域連絡協議会で回答しましたとおり、BSL-4施設の設置につきましても、国の関与を強く求めた結果、国策として方針が示されたものであり、国に対して見返りを求めていますし、今後も求める考えはありません。

③について

BSL-4施設は、感染症の拡大リスクが高まる中、その必要性は十分認識されているところですが、この施設は、危険性の高い病原体を扱うため、その設置には、「安全性の確保」と

「市民の理解」が前提です。

このため、長崎大学、長崎県、長崎市の三者で「基本協定」を締結し、課題の明確化や克服のための議論や取組みを進めてきました。

その過程で、「安全性の確保」と「市民の理解」を満たすため、感染症対策の当事者として必要不可欠としていた国の関与について強く求めてきたところ、平成28年7月に、BSL-4施設整備について、国から責任をもって関与していく姿勢が示され、同年11月14日に、内閣官房長官、文部科学大臣、厚生労働大臣政務官から直接、県・市に対し、BSL-4施設設置に対し協力要請がなされ、その際、「安全性の確保」、「市民の理解」にかかわる大切な要素として、「予算の確保」、「第三者の立場からチェックする仕組みの構築」、「万一の事故等が発生した場合の対応」の3点について確認し、内閣官房長官から、政府として万全の対応を講じていくとの考えが示されました。

さらに、同月17日には、関係閣僚会議において、国策であるBSL-4施設の設置に対する国の関与について、文書で明確に示されました。

その上で、同月22日に、長崎大学学長、知事と市長の三者で協議を行い、長崎大学に対し「世界最高水準の安全性の実現」、「地域との信頼関係の構築」、「国と連携したチェック体制の構築」の3点について確認したところ、学長から、「地域と共生するという真摯な姿勢でしっかり取り組む」との回答が文書で示されました。

このような一連の状況を総合的に勘案する中で、地元自治体として長崎大学によるBSL-4施設の設置に協力するべきであるという判断を知事とともにいたしました。

BSL-4施設の設置は、我が国のみならず世界の人々の命を救うことにつながるものであり、平和都市、世界都市としての長崎市のあり方にもふさわしく、世界に大きな貢献をする可能性を持つ施設と考えています。

(2) 寺井 幹雄 委員提出

【質問】

前回会議で頂いた予定表では本年12月に着工したとして2022年度から段階的稼働となっています。

- ①段階的稼働時の主要要員はBSL-4経験者である森田先生、安田先生、早坂先生を中心としたものと考えていいですか。
- ②段階的稼働では病原体を用いての稼働が含まれますか。含まれないのであれば病原体を用いた本格稼働はいつ頃を予定していますか。

【意見】

・緊急時の連絡について

もし万が一の事故が起きてしまった場合に近隣住民への告知方法として拡声器使用が案のひとつとして提案されています。しかし拡声器の音声は反響音で聞き取りにくく正しく情報が伝わらないことが考えられ、逆にただ混乱のみを引き起こさせるだけではないかと危惧します。またサイレン使用についても是非考え直して欲しいと思います。サイレンは人々を無用の不安に陥れるだけです。

この度のBSL-4施設で取り扱われる予定の病原体は空気感染しませんので秒分単位で住民への緊急告知を行わねばならないものではないと考えます。もちろん第一報は間髪入れずに行政はじめ関係各所に通知されなければなりません。住民に対しては寧ろ一定の時間を掛け、事態を正確に把握した上での確かな情報発信を努めるべきと考えます。またその時の情報伝達量は様々な憶測を呼び起こさせないように必要最低限に留めるべきだと思います。

万が一に際して住民が冷静に対処出来る環境を整えることが最も重要だと思います。

・自治会としての対応について

最近、この話題が良く出ますので一言私見を言わせて頂きます。

自治会の中では賛成/反対/中立、多種多様な意見があると思います。ただ、これらの意見を集約して自治会として賛成だとか反対だとかの立場を鮮明にさせる事は本来の自治会の役割ではないと思います。仮に自治会総会での決議だからと旗幟を鮮明にしていると言われるならば少数の意見は切捨てられ多様な意見を発言したり、聞いたりする機会が失われてしまいます。また住民の中には地域を色分けされたくないと考えている方も少なからずおられます。混在している意見を一括りにまとめようとすればするほど議論を矮小化させるだけで深耕は望めないのではないかと私は考えます。

(長崎大学の回答)

①について

BSL-4 実験室内で実験・作業を行う人員に関しては、段階的稼働までに研究部門、人材育成部門、施設安全管理部門あわせて十数名の教員を配置し、これらの教員のほとんどは海外

のBSL-4施設での研究歴あるいは訓練歴を有する者とするを予定しています。また、これら教員に加えて施設安全管理業務に従事する技術者、警備に従事する者等も加わり段階的な施設稼働を開始します。

②について

「段階的な稼働」には、病原体を用いての稼働が含まれます。用いる病原体は長崎大学が既に保有する、例えばSFTSウイルス等を想定しております。それらの病原体を用いて、通常はBSL-2、3実験室で行われる実験をBSL-4実験室で行いながら、施設設備の習熟運転、職員の習熟訓練を進めることを予定しています。ご指摘の本格稼働（BSL-4実験室でしか扱えない病原体を本施設において利用すること）を行うためには、上述のような段階を経ながら、慎重に確認作業等を進めていくことが、安全管理において大変重要と考えています。なお、本格稼働の時期については、以前のご質問にもご回答しましたように、施設と要員の習熟度によるところが多く、現段階で具体的な期間は申し上げられませんが、建築終了後応分の年月を要すると考えています。

また、緊急時の連絡及び自治会としての対応について、貴重なご意見を頂きありがとうございます。

緊急時の連絡については、地域の方々に伝えるべき内容とその伝え方に関して、本学で十分に検討した上で、地域連絡協議会等を通じて地元ともご相談しながら決めていくことを予定しています。ご指摘のとおり、本学としても何よりも無用の不安を起こすことは厳に慎むべきと考えており、今回委員からご指摘いただいた内容も踏まえて検討を行っていきます。

自治会内での情報共有等については、あくまでも各自治会長等のお考えで進められるものと認識しておりますが、本学としては、今回委員からご指摘いただいたように、BSL-4施設に対して地域の方々の不安なお声があることを重く受け止め、その声を忘れずに、地域の方々のご不安を軽減できるようなご説明を継続的に実施していく考えです。

(3) 道津靖子委員・梶村龍太委員・神田京子委員 提出

10.27 質問会の結果について

10.27 質問会は、多数の住民の事前質問と会場での質問・意見が多数出されて、大学側も大変有意義だったと仰って頂き、企画した側としても嬉しく思います。質問会での住民の生の声を地域連絡協議会の委員にも知って頂くために、議事録と事前・事後の意見書を添付して、協議会に提出致します。

長崎大学には、質問会で地域住民の直接の疑問や意見に答えて頂きましたが、改めて議事録を確認して全体を通してどのような感想を持ちでしょうか。質問会での意見・質問を踏まえて、これまでの成果や改めて認識した課題などどのように総括されるのでしょうか。御回答よろしくお願ひします。

以上

(長崎大学の回答)

まず、平野町山里自治会、山里中央自治会からご提案を頂き、今回の質問会を開催・参加させていただいたことについて御礼申し上げます。

質問会においては、多様なご質問・ご意見をお受けしましたが、本学からのご説明・情報が地域に正確に行き届いていないこと、また施設の整備に関して不安な気持ちをお持ちの方もいらっしゃることを改めて確認しました。本学としては、地域の方々の不安なお声があることを重く受け止め、その声を忘れずに、地域の方々のご不安を軽減できるようなご説明を継続的に実施していく考えです。

また、今回ご提出いただいた資料の中で、山里中央自治会道津会長、平野町山里自治会高谷副会長、神田委員からは追加でご意見を頂きました。今回の質問会については、地域の方々のお声を直接お伺いできる機会であり、本学としても可能な限り丁寧に、正確にお答えいたしました。繰り返しとなりますが、本学としては、地域の方々の不安なお声があることを重く受け止め、その声を忘れずに、地域の方々のご不安を軽減できるようなご説明を継続的に実施していく考えです。

なお、事後的に頂いたご意見のうち、平野町山里自治会高谷副会長からの意見書(72~75ページ)には、今回の質問会における質疑応答に関してのご意見・ご質問がございましたので、併せて、以下のとおりご回答いたします(76ページのご質問・ご意見については、どのような事実関係に基づくご質問・ご意見であるのか、またご質問の内容に不明瞭な点があるなど、このままではお答えすることが困難ですので今回の回答からは除いております)。

①について

坂本キャンパスへの立地については、これまでもご説明しておりますので、改めて詳述することは差し控えますが、今回頂いた「実験中の針刺し事故に対応するとは、研究者の安全・生命を守る事が最優先されており、大学側の論理ではないのか」というご意見については、地域連絡協議会において繰り返しご説明したとおり、BSL-4 施設外へ病原体が出るおそれが最も高いのは、実験者が病原体に感染し、人を介して施設外に出る可能性であると認識しており、その可能性に対して考えられる限りの対策を行うことが極めて重要であると考えております。これまでの本学における基盤の上に BSL-4 施設を中核とした研究

拠点を形成し、地域の皆様にその様子をご覧いただきながら、地域の皆様とともにこの施設を運営し、高いレベルの研究や人材育成を通じて、地域の活性化や安全に貢献していきたいと考えています。

②について

ご指摘のアンケートにつきましては、地域連絡協議会や今回の質問会における質疑応答の中でお答えしているとおおり、賛否を問うようなアンケートを行う考えはありませんが、本学からの説明や情報提供等をよりよく実施していくための一つの方法として、本学が今後も開催する予定の説明会等の場で、説明の分かりにくかった点やご不安な点等をお伺いするような、アンケートを含めた様々な方法については、その実施について検討していきます。

③について

地域連絡協議会に、地域住民の方々全員にご参加いただくことは困難であることから、現在、地域住民の方々の様々なお声が入りやすい自治会長や関連する学識経験者の方等に委員としてご参加いただいているところです。他方で、地域の方々に対する情報共有に関しては、本協議会に限らず、各自治会等のご協力もいただきながら、あくまでも本学において取り組むべき事柄であると考えております。また、ご承知のとおり、本協議会においては既に公募委員制度を採用しており、本制度に地域の方々に応募していただくことは、これまで同様に可能となっております。

④について

地域には、BSL-4 施設の整備に関して不安な気持ちをお持ちの方々もいらっしゃることも承知しております。そういったの方々に対しては、BSL-4 施設の稼働前後を問わず、科学的な事実や設備計画に関する正確な情報をお知らせするなど、本計画をより知っていただくための取組を継続的に実施していく考えです。また、地域の方々に本計画をご理解いただくためには、本施設の安全性そのものを高めることも重要であるため、ご指摘の「万一の事故を防ぐための研究者のストレス軽減」も含め、様々な検討・取組を行っているものです。

⑤について

ご指摘の炭疽菌に関しては、これまでも地域連絡協議会等でご回答しているとおおり、本学の BSL-4 施設において炭疽菌を用いた研究を行う考えはありません。

他方で、「炭疽菌を扱うことを否定しなかった」とご指摘いただいている点については、質問会でもご回答しているとおおり、本学の BSL-4 施設を用いなければ国民の安全が確保できないような、他施設のみでは困難な状況になるような、本学に対する要請があるなどの現在は考えられないような事態が生じた場合には、炭疽菌を扱った実験を行う可能性は否定できないとしているものであり、繰り返しとなりますが、本学としては、本学の BSL-4 施設において炭疽菌を用いた研究を行う考えはありません。

⑥について

ご指摘の「第三者機関」については、これまでもご説明しているとおりになりますが、本学以外の第三者の専門家が、専門的な観点から本学の取組をチェックすることは重要であることから、文部科学省に長崎大学高度安全実験施設に係る監理委員会が設置され、計画の内容について確認いただいております。また、本学においても、長崎大学高度安全実験（BSL-4）施設整備に関する専門家会議及びバイオセーフティ管理監を設置し、計画の内容について確認・検討・助言等を頂いているところです。さらには、実際にBSL-4施設が指定・稼働するためには、感染症法に基づき、厚生労働省及び警察庁からの確認・指導を頂くこととなります。

また、「情報公開」についても、これまでもご説明しているとおりになりますが、本学としては、BSL-4施設に関する情報開示を重視しており、開示することでかえって施設の安全確保に支障を来す場合等を除き、適切にBSL-4施設に関する情報を地域の方々にお知らせする考えです。繰り返しとなりますが、例えば施設の平面図や病原体の保管場所等、開示することでかえって施設の安全確保に支障を来す場合等があることについては、ご理解いただきますようお願いいたします。

H30年10月27日開催「住民から長崎大学への質問会」議事録

(註) 議事録中、●は録音音声聞き取れなかった箇所を示す。

司会

時間になりましたので、開催したいと思います。

ただいまより、平野町山里自治会・山里中央自治会主催の住民から長崎大学への質問会を開催いたします。

私は司会進行を務めさせていただきます、平野町の神田と申します。どうぞよろしくお願いします。(拍手)

開催に当たり、幾つかお願いがありますので、よろしくお願いいたします。

本日はせっかくの機会ですので、多くの方々からご自由にご意見をいただきたく思いますので、恥ずかしがらずに、小さなことでも結構ですので、ぜひ意見を発言していただきたいと思います。発言に当たりましては、挙手をしていただき、1回に1件の内容でお話してください。何件か複数でご意見を持っていらっしゃる方は、お手数ですけど、何度でもその回数分、挙手をお願いいたします。

本日はカメラが入っていますが、写してもらいたくない方は、発言される前に撮影しないでくださいとおっしゃってください。マスコミの方のほうもそれをご了解して、よろしくお願いいたします。

発言の勇気が出ない方は、ほかの方のご意見に、私も同じ気持ちですとか、短い言葉で言うていただくか、拍手をしていただいても構いません。

あと、携帯電話の電源を切るか、マナーモードへの切り替えを、ご協力をお願いいたします。

今日はお忙しい中、長崎大学感染症共同研究拠点より、先生方が出席してくださいました。お忙しい中、わざわざご足労いただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

前に座っていらっしゃる先生方が主にお答えしていただくことになっております。ちょっとご紹介いたします。

右から、こちらから2番目の方が調副拠点長です。(調：よろしくお願いします。) そのお隣が安田先生で、高度安全実験設備施設設置準備室長ということでいらっしゃいます。

(安田：よろしくお願いします。) 手前の方が中嶋先生で、施設・安全管理部の部門長です。

(中嶋：よろしくお願いします。) 一番端の方が、地域連携部門のほうから嶋野先生です。

嶋野

嶋野でございます。よろしくお願いいたします。

司会

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、主催者側より、平野町山里自治会長、梶村会長、続けて、山里中央自治会の道津会長です。(拍手)

それでは、お二人からごあいさつを差し上げたいと思います。よろしくお願いします。

道津会長

皆様、こんにちは。山里中央自治会長の道津です。よろしくお願いします。今日のこの会というのは、日頃、大学になかなか声が届いていないという、そういう意見を受けて、皆様の自治会の方々と一緒に大学に何でも聞いてしまいたいということ。疑問に思っていること、日頃 BSL-4 施設に対して何か感じていること、そして質問したいこと、何でも聞いてもらうという会にしております。

なぜこの会というのが必要なのか。それは、大学が建てようとしている BSL-4 施設は、もちろん有効性もございますが、住民にとっては、もし何か事故があったり、ヒューマンエラーがあったり、何か起こった場合に重大なそういう事象が、地域住民に危険が及ぶかもしれないという、ちょっとそういうふうな心配がある施設となっております。それで、そういう中、住民が置き去りにされたまま、この施設を建設に進めてもらっては困りますということで、自分たちはやはり住民の声を届けるべきではないだろうかと思って、この会を主催しました。

今日は、本当は学長の河野先生にぜひご参加ください、お願いしますということで、再三要求してまいりましたが、今日は出張ということでお越し願えなかったのはとても残念に思っています。でも、4人の先生方が今日はお休みにもかかわらずちゃんと出席してくださいましたので、皆さんの本当に正直な感想だったり、質問だったり、疑問だったりをぶつけていただいて、本当に真摯にその声を聞いていただきたいと思います。先生方、どうぞよろしくお願いします。

それで、すみませんけれども、宮崎薬局の先生方もこの会に参加したいということで、私が代わりに薬局に入りますので、ちょっとだけ退席しますので、すみません、そこはご了承ください。

今日は皆さん、本当によろしく申し上げます。先生方、よろしくお願いします。(拍手)

司会

梶村会長、ちょっと一言。

梶村会長

先ほど道津会長が言ったとおりで、私たちは地域連絡協議会という場でいろんなことをお話しして、かなり大学の先生たちもいろんなことを言ってくれて、話は聞いて、そういうことかなということにはわかってはいるのですが、それでもやっぱりいろんな不安とかは払拭できない部分があります。そういうのに参加していない、全然情報が届いていない

人たち、住民の人たちにとっては、どうなるんだろうという不安というのは大変なかなか払拭することができないだろうと思います。今、木の伐採とかも始まっていて、着工に向かって進んでいるところで、1回きちんと、住民の人たちが何を不安に思って、どういうことを考えているかというのはきちんと大学に伝える場が必要だろうということで、急遽、この準備にはばたばたと本当に決まった感じでしたが、今日も50人近くの方が来てもらって、大学の先生たちも、今日は本当に直接話を聞くことで、また新しいいろいろな考えとかが出てくるだろうと思いますので、本当に素朴な疑問とかで構いませんので、たくさんぶつけていただきたいと思います。

先生たちは本当に勇気があるなと思います。今日はよくいらっしやいましたと、本当に大変だろうと思いますけれども、2時間ぐらいはかかるのかなと思っていますが、本当によろしく願いいたします。

正直な、腹藏のない意見を戦わせていただいて、すっきりして帰りたいと思いますので、本当によろしく願いいたします。

司会

ありがとうございました。続きまして、大学のほうより、調先生のほうから代表して一言で結構ですので、お話をお願いします。ごあいさつをお願いします。

調

全然あいさつをする予定はなかったのでも何も考えていませんけれども。今日の会は、我々もこういう会が持てればいいなと思いつつ、じゃあ、どうやったらこういう会が持てるのかなということは、例えば新聞社に頼んで中立の立場から司会をしてという会をやってくれんかという話とか、何回かしたことはあるのですが、なかなかうまくいきませんでした。今日はこういうご提案をいただいて、梶村先生からは勇気があると言われましたけれども、できるだけ我々の本音のところがお話しできればいいのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

司会

ありがとうございました。

そしたら、これからですね……。お手数ですけど、一応、マイクをお使いになった後は電源を切っていただくようお願いいたします。

それでは、皆様からご意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

立っていらっしやる方、座布団をご用意していますので、側面のほうにお座りになってください。いすの数がちょっと足りなかったものですから。せっかくお出掛けくださいましたので。横のほうがわかりやすいと思うので。

それでは、よろしく申し上げます。

住民

こんにちは。私は山里中央自治会に住んでいます。2015年7月末にアンケートを取りまして、回収率が93%、反対は78%でした。これからも私はこの場所で安全・安心の中で生活したいと思っていますが、前学長は100%安全はないと言われていました。住民の不安に配慮して住宅地から十分離れた場所に建てる計画はそもそもなかったのでしょうか。その点をお聞きしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

司会

ありがとうございます。先生方、少しですね、一問一答にすると、ちょっと長いので、幾つか意見を出していただいたところで私のほうからお願いいたしますので、そのようによろしくお願ひいたします。

住民

近隣の自治会員です。

過去に浦上は国策で2度にわたって人々がこの地からいなくなりました。一つは、禁教令によって浦上村から3,500人が西日本各地に流配されていったのです。二つ目は、原爆により8万人という尊い命が一瞬に奪われました。その中で、私の祖父母、おじ、おば含め家族15名も犠牲となったのです。

私たちの残された人生、そして子々孫々にわたってBSLの恐怖におびえていくことはとても耐えられません。長大は長崎市民にこれ以上、3度目の恐怖を与えず、安全な場所を真剣に検討すべきです。国立長崎大学はこの件を押し通すことになれば、生涯にわたって汚点を引きずることになると思います。

以上です。(拍手)

司会

ありがとうございました。

松尾

平野町山里自治会の松尾といいます。大学の先生方は本当にご苦労さまです。

近隣住民から長崎大学への質問および意見を発言します。

BSL-4研究施設建設に反対する声を上げてはや3年半の月日が流れました。平野町山里自治会をスタートに、上野東部自治会、山里中央自治会と近隣自治会住民の声を無視して、本年12月、長崎大学が一番危険度の高い研究施設の建設に踏み切ろうとしております。河野学長さん、調副学長さんご両人の態度に強い憤りを覚え、強く反発し、私たち自治会も

大学の先生方に負けないように勝ち抜く覚悟です。

病原体の漏出など深刻な事故が起きた場合、多くの人の命や生活に重大な被害を及ぼす可能性があることに間違いありません。大学側は建設計画を破棄し、今までどおりの市内の豊かさを住民は願っております。なお、住宅密集地への建設は絶対に許しません。

以上です。(拍手)

司会

ありがとうございます。今のところ3人の話の中で、住宅密集地に造ることに対する皆さんの思いをお話ししていただきました。山里中央および平野山里についてはアンケートを行って、大多数の方が反対ということで、近隣のところも、やっぱりこの浦上地区という特殊な地域ですので、何度も被害を受けていると、歴史的に被害を受けていて、その上にまた、やっと復興したこの現状の中で3度目の被害の可能性があるような施設をなぜ造るのかということですので、その辺についてちょっとお答えください。

安田先生ですか。よろしくお願いします。

安田

安田です。よろしくお願いします。

まず、最初のところで……。

まず、前学長の話としまして、100%安全じゃないというところ、これはいつもこの部分を切り取られて、たぶん住民の皆さんにこの部分が非常にご不安を与えることかなと思って、私自身はあまりこの言葉は好きではないのですけれども。前学長ももともとは研究者ですので、正直にゼロではないので、100%、危険リスクはゼロではないという言い方をしていたと思います。これは世の中の物事全て可能性ゼロということはありませんので、そういう意味で申し上げていたということ、まず最初に説明させていただきたいと思います。

それで、我々、当然、例えば今も地域連絡協議会等でお話ししていますとおり、リスクは幾つかリストアップできます。ただ、それに対してきちんと対応策を取ることによって、そのリスクをゼロにするという試みを現在もこれからも続けていきます。ですので、住民の皆さんに不安を与えないような形でこの施設設置計画を進めたいと考えております。

複数の方から、じゃあ、ほかに、ここの坂本キャンパス以外に候補地がなかったのか、検討しなかったのかというお話もあるのですけれども、まず、我々が坂本医学部キャンパスにこの施設を設置する理由ですけれども、いつも説明させていただくことなのですが、一つは、もともと熱帯医学研究所、それから医学部がございます。多数の感染症関連の研究者がいます。これは、じゃあ、ほかの大学にもあるじゃないかとおっしゃるのですけれども、私ももともとは他の大学から来た者ですけれども、やはり長崎大学のこの坂本キャンパスには非常に多くの専門家が集積しているという事実がございます。ですので、

研究をこの場で行えば、効率よく、しかもトップレベルの成果が上げられるという考えがあります。

さらに、大学病院がすぐ近くにございますので、施設の中で何かあった場合も、例えば実験者が針刺し事故等あった場合も、当然すぐに隔離して治療を開始するのが、周りにも感染を拡大させないということで非常に重要なのですけれども、大学病院にはそういった患者さんを収容するための隔離病床がございます。ですので、そことの連携ができる。あるいは、長崎に疑いのエボラ出血熱とか、そういう BSL-4 で扱うようなウイルスによる感染症の疑い患者さんが出た場合も、直ちに BSL-4 施設のほうで検査ができると。連携して対応ができるというメリットがございます。

それから、インフラも、研究というのはきちんと研究基盤、あるいは設備等が整ったところで行わないと、安全にもできないですし、効率よくもできないというようなこともあって、もともと坂本キャンパス、医学部キャンパスには、そういったインフラが整備されているというようなことから、坂本キャンパスに造るのが最も適切だろうと。また、長崎大学がきちんと自分のところのキャンパスでそういった施設を造って研究活動をすることが、長崎大学が責任を持つという意味においても非常に重要だと考えて、現在、坂本キャンパスでの設置を計画しているところございます。

先ほど、途中で申し上げたのですけれども、他の候補地は検討しなかったのかと。それは検討しました。その点につきましては、私の隣におります嶋野教授から説明させていただきます。

司会

すみません、まとめて大学がお答えすると、ちょっと意見がなかなか出にくいので、それはまた嶋野先生、後からよろしいですか。振りますので。あと、皆さんのほうから。どうぞ。

住民

2期目の片峰学長の立候補のときに初めて BSL-4 の計画というのがオフィシャルになったと僕は理解しているのですが、それから8年目になりますね。今年がですね。やっぱりね、学長のおらんところでやったって意味がないんですよ。はっきり言えば。学長、その言われた本人ですよ、特に。計画を立てられた本人が出てきて、要するにあとはおまえらに任せるといふあれはもういい加減にやめないとということと、それから、梶村会長もちよろっと触れましたけれども、かなり勇気がありますねと。勇気がありますねじゃなくて、最初に反対の声が上がったら、その人たちに向き合うのが第一の仕事でしょう。それを今までかかって逃げ回っていたということですよ。僕に言わせれば。だから、全然内堀は今になっても埋まっていないということです。

ちょっとついでですから、調さんに確認します。僕はこの問題に関しては、土山秀夫さ

んの判断というのがやっぱり一番参考になると思って、土山さんと連絡を取りながら、意見を聞いてきました。ですね。最初からですね。土山さんのご意見は、施設の必要性というのは認めるけれども、坂本キャンパスはないというふうに最初からおっしゃっています。途中でも片峰学長、それから調さんもその場におられたそうです。もう一回、その話が持ち上がったけど、僕の考え方は変わらないよとおっしゃったというのを、僕は本人から直接お聞きしているのですね。もう今、お亡くなりになりましたから、確かめようがないですけれども、僕自身はそういうやりとりを土山秀夫さんとさせてもらいました。

それは、そういうお話はあったのか、ないのかを調さんにちょっとお尋ねしたいと思います。だから、全然逆だということですよ、意見としては。

司会

ありがとうございます。すみません、調先生、ちょっと……。

調

ありがとうございます。

まず、この片峰がここにいるか、いないかということについては、そもそもリクエストがないので検討もしておりません。ただ、前学長がここに来るって、僕は、妥当性はないのではないのかと思います。

それから、土山先生の話ですけれども、これは亡くなった人がどう言った、こう言ったという話をしてもどうしようもないような気もするのですが、私は時々、土山先生とお話をしておりまして、私には、言ったとおりに言えば、片峰君と調君がしていることに対して反対はありませんとおっしゃいました。ただし、研究者はお金に弱いから、そこは気を付けてねとおっしゃった。それはよくわかります。やっぱり防衛省から巨大な研究費が出ていて、僕に長崎大学はそれを申請させない、申請しないという宣言をしたんですよ。

実は辞めて、東京の大学、私大に行った私の知り合いの研究者がおりまして、長崎大学から出て行ってよかった。実は長崎大学で教授になれなかったから出て行ったのですが、工学部の人でした。あまり言うとかわっちゃうからあれですけど。行った先の大学は全然そういうことがないので、彼は長崎を辞めてよかったと言っていました。我々としてはそういう人には出て行ってもらって結構ですということでございます。

以上です。

司会

どうぞ。

高谷

平野町山里です。

最初に、中央の方からもお話がありましたけれども、あらためて住民の意識というものについて申し上げたいと思います。

平野町山里自治会においては、平成 27 年、それと平成 28 年に 2 回の住民アンケートを実施しました。いずれも反対が 7 割を超えるという結果が現実に出ています。さらには昨年、平成 29 年には、住所、氏名を書いていただくという方式で、当然そうですが、反対の署名活動を行いました結果、実に 365 筆の署名が集まったわけです。

この結果を考えると、坂本キャンパスに隣接するほかの町、要は住民全体の意識とおそらく大きく変わるといえることはないと思います。むしろ、これが坂本キャンパス周辺の意識なんだろうと、自分は思います。（「そのとおりだ」の声あり）すなわち、地域住民の総意だということでもあります。

だから、それは違うんだとおっしゃるのであれば、何らかの調査を大学のほうでも住民と協力してやられればいいし、道津会長なんかは住民アンケートと協議会でおっしゃっていますけれども、何らかの意識を、住民がどう思っているかということを考えていただきたい。

それと、長崎大学は、公言されているのが、地域住民の理解は深まってきているということをおの公の場でおっしゃっていますけれども、そうであるならば、我々はデータで示していますから、根拠であるとか、データというものでやっぱり議論するのが筋道だと思います。

以上です。（拍手）

司会

ありがとうございました。今回の開催に際して、本日出席してくださった方だけではなくて、どうしてもお仕事の都合で出席できない方々から意見をいただいている、それが約 60 件ぐらいの意見をいただいております。やはりその中には、もう今既にお話くださったように、住宅密集地への建設に対する考えであるとか、やはり不安であると。なぜここにする必要があるのかというような意見がございます。

一部のところではアンケートを近隣として取っておりますけれども、実はちょっと今日も来られなかったのですが、遠いところの南町ってご存じですかね。大浦のほうになるんですけど、そちらのほうの自治会から、自治会長さんが、大学は自ら説明会と称して南部地域の単一自治会へ出向く意思はありますかと。もしあるのだったら、ぜひ来てほしいという会長さんからの質問と、副会長さんから、そちらのほうは遠いところではあるんですけど、アンケートを行ったと。そのアンケートの結果で、120 世帯のうち 93 世帯の回答があつて、数から言うと、施設を設置してほしいという人が 13、欲しくない人が 36、どちらとも言えない・判断ができないというのが 42%ということになっていますけれど、回答率 77.8%のうち、設置賛成が 14%、反対が 40、どちらとも言えないが 46%ということ、半数ぐらいの市民が施設に関する情報を理解できていないということになると。これ

は今まで 100 回ぐらい説明会をしましたよと、大学はおっしゃっているけれど、そこは実際には効果は出ていないのではないかと。

ですから、そういうことで、設置に対する合意と理解を得られていないということではないでしょうか。その南町自治会、遠く離れた自治会のアンケート結果についても真摯な回答をいただきたいと。国策としてするのであれば、長崎市に代わって、市民の設置に対するアンケートを実施して、施設の必要性を問われるべきではないかと、ちょっと質問が来ているのですけど。

今、高谷さんのほうからも、平野のほうで、私の所属しているところなのですが、いち早く反対の声を上げていますので、これらの山里中央もそうですけれども、あと、上野、橋口、江平とか、大学の前に掲げている横断幕のほうに書いていますけど、そういうことに関していかがお考えかというのを、ちょっと大学のほうからお答えいただけませんかでしょうか。嶋野先生ですかね。

嶋野

長崎大学の嶋野でございます。今日は本当にありがとうございます。

まずアンケートについて、事務局の今までの検討の経過を簡単にご説明した後、また必要に応じてほかの教員から補足をさせていただきたいと思えます。

私の記憶に間違いがない限り、この計画を地域社会の皆様方にご相談を開始したのは、もはやもう 6 年ぐらい前に、もちろん整備をしたいという意向はもうちょっと前から発表しておりましたが、本格的に地域の方々にご意見をいただくように向き合ったのは 6 年ぐらいたつと思えます。ある意味、地域の方々とうまく向き合うのかが、この 6 年間の最大の焦点の一つだったと私どもは考えておまして、その中で、どういうふうに皆さんのご不安やご疑問をうまくお聞きしてお答えをしていくのかと、ずっと悩みながら進めてきた 6 年だったと思えます。

アンケートにつきましては、我々、長崎大学単独で判断をするのではなくて、いろいろな関係機関や有識者の方々にもご意見を聞きました。中で我々の心に一番響いたのは、どうせあんたたちがアンケートをやったって誰も信用してくれないよというような厳しいご指摘もありまして、そういう意味で、我々としてアンケートをするのは今まで控えてきているところでございます。

ただ、もちろん自治会単位でアンケートをなさるということについて、私どもが干渉したり、ああでもない、こうでもないと申し上げることでもないので、アンケートをお取りになられた自治会のご見解については真摯に受け止めて、今までいろんな努力をしてきたというつもりでございます。

また、そのアンケートを取らないからといって、皆さんのお声をお聞きする、お聞きしないということではなくて、今日資料を配るなどということですので、書き物にしてお配りをしておりませんが、いろいろな手法を取りました。例えば代表例の一つ挙げると、これ

もある自治会の方から、意見を聞きたいとか疑問を聞きたいというのであれば、フリーダイヤルぐらい設置するのが今の世の中常識だろうということで、パンフレットの類いにも全部入れておりますが、フリーダイヤルの設置などもしてきております。

今回もまさしくこういう形のご提案をいただいて、非常にありがたいなと思って、今日、4人が出てきている次第でございます。そういう意味で、アンケートを取ったか、取らないかといえば、長崎大学は取っておりませんが、なかなかそれが現実に難しいということで、ほかの手法で皆様のお声をお聞きするように努力を重ねてきたということでございます。

司会

ありがとうございました。あと、ご意見のある方、挙手をお願いいたします。

調

神田さん、我々としては、ご希望があればどこにでも参りますというのはずっと言っております、さっきのフリーダイヤルとかメールアドレスとか、ホームページで申し込みができるようにはしております。この数年間ですね。残念ながら我々のところにはそういうリクエストが来ていないというところですので、やっていただければ参ります。

神田

そのことをお伝えしておきたいと思います。ありがとうございました。

住民

今いる、ここに来ているのは平和町と近隣のということですけど、この問題に関しては、近隣だけじゃなくて、長崎市にかかわらず、県も含めての範囲に万が一のときには広がるような可能性があるウイルスだと思いますよね。

隔離といいますが、どうやってその隔離する人間と隔離しない人間というのを分けるのでしょうか。発生したときにですね。この周知するのは、近隣の住民にだけじゃなくて、市民や何々の意見を聞いて、それから始めるべきことやと思いますよ。それをほとんど勝手にですよ。こういう石木ダムにしても、諫早干拓にしてもそうですよ。国が決めようとすることは勝手に決めて、住民が反対しても聞かない。なぜそれを理解して別のところに建てようとか何とかしないのか。もしも、その研究が本当に必要であれば、エボラが発生している現場でやるべきじゃないですか。（「そうそう」の声あり）（拍手）病原菌を何でよそに持ち込むんでしょうか。これは核の三原則と同じだと思いますよ。作らない、持ち込ませない、持ち出させない。それが基本じゃないですかね。それをやめると、しないと、よそに広がってしまう。そうしたときに、止める方法がないから、それを研究しようというのに、それを持ってきて広がったらどうするんでしょうか。（拍手）

取りあえず、かっかしているんで、ここまです。

司会

この問題につきましては、多くの意見が意見書の中でもございまして、今、安田先生、嶋野先生からのお答えは、いつも私たちがお聞きしている説明会でのお話になると思うのですが、やはり住民としての率直な気持ちですね。心情ということで、そこを置き去りにした形で、決まった国策だからということで、どんどんどんどん進んで、ある程度、上からの押さえつけのような進行の仕方ではないかなということに対する、やっぱり不満というか、通り越して、怒りのようなものがやっぱりふつふつと皆様のお心の中に湧いているというところは、私もこれをみんな読んでご披露したいのですが、これは後ほどまたパソコンで打ってちゃんとお渡ししますので、そのところを、少しやっぱり気持ちの上で、住民との関わりということを含めてちょっとお答えいただければと思いますけど。●
ですか、お願いします。

安田

神田さんのおっしゃったことをちゃんと理解できているかどうか、ちょっと不安なのですけれども。まずご意見をいただいたことに対して、直接的な回答をさせていただきます。

まず、隔離対象、どういう人を隔離対象にするかというご質問ですけれども、これは例えば施設の中で針刺し事故などがあって、もしかしたら感染したかもしれないという研究者がいれば、当然大学病院のほうで隔離しますし、長崎で例えばそういったウイルス性出血熱と呼ばれる BSL-4 で扱うべき病原体による感染症が疑われた場合にも、その場合も大学病院のほうに隔離されるということになるかと。

住民

見極めというのは、誰がどうやってつけられるのですか。

安田

それは、症状から、例えばまちの中でそういう人が出たとか、病院にそういう疑いの方が来られた場合には、医師が診察をしまして、疑いありということであれば、まずはこれは保健所に届け出ることになっています。それは法律で決まっています。医師は直ちに届けなければならないという法律になっていますので、その後、国立感染症研究所等で検査されることになりまして、場合によっては厚労省からの依頼があれば、長崎大学のほうの BSL-4 施設で検査をするということになります。

住民

症状が出た人はそれでわかりますけど、だいたいの潜伏期間というのがあって、症状が

出ない間に菌をまき散らかすということがあるわけですね。

安田

一般的に無症状の間はウイルスはそれほどたくさん体の中で増えていませんので、周囲に病原体をまき散らすということは可能性は低いと考えられて……。

住民

可能性だけですね。

安田

はい。

住民

ゼロじゃないんですね。

安田

ええ。ただ、それはどの感染症でもそうであって、潜伏期間というのが……。

住民

それは感染症でも一緒ですが、エボラ出血熱というのは非常に危険な菌じゃないんですか。ウイルスじゃないんですか。この間もアフリカで発生したときには、結局、終息したけど、終息した原因はわかっていないんでしょう。それに携わった看護師さんや医者たちも亡くなっていますよね。

安田

はい。まず、すみません、どこから話していいか……。BSL-4 で扱う、極めて致死性の高い、主にウイルス性出血熱という症状を起こす病原体なのですけれども、これはほとんどが、ほとんどがというか、1 個だけ例外があるのですけれども、ほとんどは接触感染といって、直接患者さんの血液、体液、あるいは感染した動物の血液、体液、あるいはそういった動物の肉を食べたりすることによって感染するものです。

ですので、例えば、そうですね、インフルエンザとかそういうのとは全く違って、咳とかそういうので簡単に移るような病原体ではないのですね。実際、2013 年から 16 年に西アフリカでエボラ出血熱の非常に大規模な流行が発生しましたがけれども、そのときも空気感染というのは 1 例も報告はされておられません。ですので、そこから爆発的に無症状のときの人から大規模にわたって感染が成立する可能性はないと考えています。

1 個だけ例外があると申し上げたのは、これはクリミア・コンゴ出血熱というもので、

これはマダニが媒介するものです。ですので、それもマダニが存在しなければ感染しませ
んし、感染した人の血液を吸ったマダニがいないと感染が成立しないというものです、
感染力という意味では非常に弱いというものです。

住民

感染力が弱くても、感染するわけですよ。それで何千人か亡くなっているわけでしょ
う。

安田

それは、だから、接触感染によって、医療従事者の方が患者さんの血液、体液に直接接
触したりすることによって感染が成立したということです。

住民

●何千人も死んだ●。

中嶋

実は私、大きな流行が西アフリカであったときに現地に派遣された日本人の医師の方、
3名と、それから看護師の方、直接、結構な時間、話を聞いて、日本での対策を考える
という場にちょうどいたことがございまして、聞いてまいりました。何であんなに大きく、
普通、エボラ出血熱というのは、何ていうのでしょうか、離れた村々で起きて、その村の
人たちがみんな亡くなって終わっちゃうような病気なのですが、何で西アフリカであんな
に広がったのかというところは、聞いたところ、実はお亡くなりになった方を弔う場面が
一番その流行に大きな影響を及ぼしてしまった。端的に申しますと、日本でもそうなの
ですが、お亡くなりになった方を弔うというのは、やっぱり皆さん、どんな人種の方もお持
ちのようで、ただ、アフリカのその地域の場合には、お亡くなりになった方をよく清める
と。日本でも清めると思います。それから、あと、抱くようなことをしたりとか、それか
ら、清めた水を口に含んでしまったり、要するに一番ウイルスが多いところをみんな体
に取り込んで、それで葬儀から帰っていった。今はあの地域、すごいでこぼこ道らしいの
ですが、車が通れる道がある。そういうところに離れた村々からみんな弔いに来て、そして
弔った後、帰って行って、そのまた村々で流行が起きるといふのをどうも繰り返したと
いうこと。

さっきのご質問の中で、何で終息したか。WHO という世界国連の機関とかが、そういうと
ころが一番力を入れたのは、お弔いのに絶対に遺体に触れないようにする。それを徹
底する。それから、もし、おかしい症状の方がいたら、必ずその人を隔離する場所に運び
入れるというようなことを徹底することによって、何とか終息することができたと聞いて
います。

感染症というのは、別にウイルスだけの問題ではなくて、文化とか風習がすごく強く影響するところがありまして、アフリカの場合にはいろいろと特殊な事情も重なって、あのような大きなことになってしまったと聞いております。

安田

1点だけ。現地で研究すればいいのではないかという。

司会

よろしくお願いします。

安田

●ます。これはよくご意見としていただくことでもあるのですけれども、現地というのはアフリカとかということですよ。

住民

それもあつたけど今までもコレラにしても何にしても●要するに過疎とかそういう●もあるし、●広がっていくんじゃないですか。ヨーロッパで大流行したあれは何ですか。だいぶ亡くなった。

住民

スペイン風邪。

安田

ちょっと話がずれるような気もするので。最初のご意見に対して、まず回答させていただきます。

アフリカ等の発生現場で研究するべきじゃないかという答えに関しまして、私は実際こういうウイルス感染症の研究者でして、実は先月も、今、エボラ出血熱が流行するコンゴ民主共和国に行ってまいりました。その実際の現場を見ると、とてもこういうところで病原体を長期管理して研究するというのは不可能だということを肌で感じることができます。

それはなぜかという、アフリカはほとんど政情が安定していません。コンゴ民主共和国も20年来ずっと内戦が続いているところでして、たびたび、コンゴ民主共和国は10回目のエボラ出血熱のアウトブレイクになりますけれども、感染力が弱いので、先ほど中嶋教授からも話がありましたように、隔離によって最終的には封じ込めることができます。終息させることができます。ただ、何度も繰り返します。発生は繰り返します。

その研究を現地でやるためには、現地にBSL-4施設を設置して、安全に稼働させないといけないということになるのですけれども、電力も安定していない、政情も不安定、いつ

クーデターが起こるかもしれない、テロが起こるかもしれないというようなところで、そういう病原体を保管すること自体、私はリスクだと思っています。そういったところで最先端の治療薬とかワクチン等の開発ができるとはとても思えないです。

ですので、私の見解としては、そういうところで研究をやる施設を造るというのは、そもそもナンセンス。やっぱり先進国できちんと安全管理ができるようなところで、きちんと国際協力という名の下で、国際協力といっても、それはひいては日本にとっての感染症対策にも有用なことです。各国がそういった研究に取り組むということが非常に重要であると考えています。

司会

ありがとうございました。一応、今のでよろしいですかね。ちょっとほかの方のご意見も。

住民

政情不安な部分はわかります。ただ、それを何でこの住民の多いところでやるかという、皆さんが今まで言っていることですよね。

住民

そうです。

司会

ちょっとこの件に関して、意見書の中でも同じようなご意見が出ていましたので、ほかの皆様からちょっとお声を上げていただければと思いますけど。遠慮なさないで、せっかく大学の皆さんもお答えしてくださっていますので、ぜひ。よろしくお願ひします。

住民

すみません、平和町に住んでいる者なんですけれども、これはちょっとお願いなんです。地域連絡協議会というのは、BSL-4施設の検討状況に関する情報を地域住民の皆様へ提供するとともに、地域住民の皆様への安心・安全の確保等について協議するために設置されたと書いてあるのですけれども、その協議会で検討されたことを地域住民には、ほかの自治会はわかりませんが、平和町自治会では提供されていないのです。全く触れていないということがすごく問題で、たぶんここに見える平和町の皆さんは、何かおかしいと思っても、今、何がどういう状況なのかというのをご存じないと思うんです。私を含めて。それで、地域連絡協議会の席で出席された自治会の方だったりとか、代表として来られている方には、その代表である場所の住民なり、皆さんに必ず周知するよというのを徹底して言っていただきたいというのが、今日、希望とお願いで、それをちょ

っと言おうと思って来ました。

昨日も地域連絡協議会があって、長崎新聞のほうに周辺住民へ説明と書いてあったのですけれども、周辺住民の代表であって、周辺住民である私たちは全く内容がわかりません。これで皆さん意見を言ってくださいと言われても、言いようがないのですね。それを深く勉強されている方とか、そういう方は別でしょうけど、一般の人たちは、何かおかしいな、何か不安だなというだけで、設置が決まっているんでしょう、もうしようがないんじゃないということと言われる方もあります。いずれ設置されるかもしれませんが、ちゃんと順番を踏んで、皆さんにわかっていたらいいということが大事だと思います。

なので、すみません、平和町自治会のことになるのですが、それをまた皆さんに伝えた段階で、また疑問が湧いて、それをまた協議会のほうでそれぞれの代表が発言するというような活性化をしていただきたいというのが望みです。

以上です。(拍手)

司会

ありがとうございました。

住民

●同じですけど、私、今、平和町である地区の区長をしております。BSLのこと、問題じゃないかと、いつも思っていたので、やっと発言ができました。けども、自治会長さんはそれを避けよう避けようとされて、一つも取り合えないのですよね。区長さんの中では、私の発言によって、何人も発言が出ました。アンケートを取られたらどうですかというのも無視です。区長さんのある人が、じゃあ、この区長さんの中で挙手でもさせたらどうですかと言われました。それも無視です。そんなふうな自治会なのですね。

だから、いろいろお祭りとか運動会もありますけど、それよりも何より、命に関係のある、これを一番に私は話し合われたらいいんじゃないかと思って発言するんですけども、会長さん自らが賛成のほうなんで、どうしようもない。困っております。

そんな平和町の現状でございます。以上です。(拍手)

司会

ありがとうございます。平和町に関しては、かなり同じようなご意見をいただいている、内容を見ると、やはりこれはここでご意見として言ったりするのは、やっぱり言えないと。なかなかこっちが特定されてつらい思いになる、言い切れないというような方たちが書いてくださっているのですが、少しお読みさせてください。一応、地域連絡協議会も、その話は私たちのほうからも会長さんからやっぱり下に落とすべきではないかと、全体の意見を聞いてまとめたのと言ってほしいということでお話ししていますが、なかなかそれは実行されていないので、せっかくの機会ですので、ご意見をちょっと読ませていただき

ます。

もう本当に変な意見かもしれないのですが、これが住民の素朴な意見です。平和町の自治会が何の行動も起こさないということは、役員の中に BSL-4 施設に関係のある仕事を請け負う人がいるのかしら。それとも自治会の補助金等の話があるのかなと、変に思っています。自治会では、会長、副会長が賛成派なので、住民全員に賛成意見を押し付けております。住民一人一人の賛否意見を採り上げるべきではないでしょうか。このままだと平和町は衰退してしまうと思う。新聞、テレビ、チラシの情報でしか認識していないので、関心がないと言えそうではないのですが、集会に出向くまでには至りませんと。平和町自治会ではこの件に関しては何のお話も聞いたことがありません。平和町自治会として、生命に関わる危険な BSL-4 施設の建設について声を上げないことに全く納得はいきません。自治会役員の個人的な考えで議論をしないというのは住民をばかにしています。住民の意見を聞いて協議会に上げてください。長崎の原爆はこの地域であり、今もお苦しみは生涯続いています。今度はまた未来に向けての不安を次世代への苦しみとさせてほしくないです。地域住民の怒りも理解すべきだと思います。なぜここなのか、何らかの付度があったとしか思えないと。

少し過激と思えるような内容もあるのですが、皆さんのお気持ちは、やはりこういうことなんですよ、先生方ね。ですから、ちょっとここに関して、私たちも本当常々お願いしていますが、やはり出てくるだけじゃなくて、落とす方がいいのじゃないかと。今、先ほどの方からも大学のほうから住民のほうにこういう話を落とすようにというふうに言ってくれというご依頼もありましたので、今後どのような形でしていただけるかどうか、ちょっとお聞かせください。調先生、いいですか。

調

落とすってどういう。

司会

いや、だから、自治会長、副会長は来ていますが、そこで止まっていると。住民の人にこういう話もあって、今こういうふうに進んでいますよと。そういうことを話してもらわないと、近くにできるというわりには、新聞とか何かでは、もう、どんどん進んでいるというふうに出るけど、そういうことです。

調

下ろすということ？

司会

そうです。落とす、すみません。

調

ありがとうございます。個別の自治会がどうしたこうしたということは、私の立場から自治会にああしてくれ、こうしてくれというのはなかなか申し上げる立場にないのですけれども。平和町に関しましては、この会場で説明会も3回ぐらいはやらせていただいたと思います。それで、ですから、情報が全然入っていないというわけでもないんじゃないのかなと思うんですけれども。

例えば、今日のようなことであれば、それはまたやり方を考えてもいいのかなと思います。だいたい半分ぐらいの時間で説明をさせていただいて、残りの半分、質疑をやるということですので、トータルで1時間ぐらいですかね、普通やっているのはですね。こういう形のほうがいいという平和町の自治会さんからのご希望があればやらせていただきたいと思いますし、基本的には、自治会さんのほうに協議会の内容について、それぞれの自治会の方々に下ろしていただくというのはお願いできると思います。それから、ご希望があれば、必要な資料も作って、お配りされるような資料も作ってお渡しするのも可能ですので、できる限り、そういう機会は捉えてやっていきたいと思います。

個別の自治会員さんに、どうせい、こうせいというのは、そういう立場には我々はありませんので、そういうことです。

司会

ありがとうございました。いつものお答えだと思うのですが、そういう説明会をしたときは何人か聞きに来たかもしれないのですが、やっぱり定期的に地域連絡協議会がありますので、状況としては、新聞、テレビだけでどんどん動いているということを知られるのはちょっといかがなもんかなという思いだと思うんです。どうですか、皆さん。平和町の皆さん。(拍手)

皆さんのお声を上げきれない人が多くて、ここにも1人、これは山里の人なんですけど、運悪く妻が現在長崎大学病院へ入院中ですのでコメントを差し控えさせていただきます。いつもお世話になっております。ありがとうございますという、ちょっと悲しいような、何かことなんですけど、実際そうなんですよ。みんな、声を上げたくても、本当は病院とBSL施設は関係ないのですが、楯突くように思われても、自分たちの病気に対する、先生には尊敬をしているし、ありがたく思っているのだけど、やっぱりちょっとここではな、反対とか言わないほうがいいんじゃないかなとか、そういう思いもやっぱりあるんですよ。

ですから、そこを何とか皆さんがお伝えしたいと、一生懸命書いてくださっているのですが、どうですか、皆さん、ほかにちょっとご意見がある方。どうぞ。

住民

●私は平和町の住人ですけど、もう、この構想は建つごとなつとつとですかね。基本的に、この今建てるという、その賛成の方は、自分の隣にこういうなどができたらどういうふうにかしら。まず一つですね。

ほいで、まず、こういうふうな住人の多い、一番観光地でもあるし、そこにまたこういうふうな危険的などをつけるともおかしいし、それで、それが二つ。

それで、もし造るなら、構築をする前に、いろんな構想を立てたと思いますよね。その中で、日本は今、坑道とか水道は世界に誇る技術を持っていますよね。そういうような方面は考えられんやっただですかね。坑道というのは、結局、トンネルとか、例えば関門海峡とか、いろんな掘るですね。それで、極めつけは岐阜県の神岡坑道で、地下のニュートロンですね。あれ、掘っているじゃなかですか。そういうような実験をするときは、そういうなどを入れてやっばり考えんばですね。そいけん、こういうふうなあれが出るわけですよ。

例えば、今から坑道というのは、今、福島県原発の廃棄物ですか。あれもおそらく地中に埋めると思いますね。それと同等で、やっばり未知の、結局宇宙は粒子が飛びます。この地球上は生物が飛びます。そういうようなことから、やっばり観点から考えたときに、やはり最小限度に、確かに建設的に考えると、未知のそういうような菌とか何とかを研究するとは確かにそうです。最近世界的に有名な IS ですか、PS ですかね、ちょっとわからんですけど。あれなんかも本当、科学的なあれですよ。

だから、それにつながるかもしれないけど、やはり、この住民のこういう立て込んだところに付ける自体が、ちょっとばっかり、もうちょっと考えてですね。やっばり地下深く掘って、あるいは水道があるですたい。水道というのは幾らでもあるですたいね。ちょっと言ったらいかんけど、石炭を掘った後とか、そのような施設はあるわけですよ。

そいけん、そういうなどをやっばり利用して、日本というのは島国ですので、限られた土地の中でどういうふうにも有効活用するかということ、やっばり坑道、あるいはトンネル、それから石炭を掘った後、そういうようなところをやっばり考えながら模索しながらしていかないと、もう、ぼーんとそこに建てますよと、もう建っているのと同じですたいね。

今さらどうのこうの言うわけではないですけど、やはりそれをするには、菌が飛散しないように、宇宙は粒子が飛んできますよね。結局は、この地球上では、何ちゅうか、菌が飛散しますよね。それをいかに食い止めるかというのが技術的な問題が、まずそれが第一ですよ。そこんにきよう考えて、それで、冒頭に言いましたけど、今、賛成の方は、自分が住んでいるところにこのような施設が建ったら、どういうふうな意見で賛成ですかと聞きたかですね。まず。

終わり。(拍手)

司会

ありがとうございました。もう少し住民の皆さんの意見をお聞きしてよろしいですかね。どうぞ。

住民

先ほど嶋野先生、調先生が、結局言いますと、住民の声を私たちは出したいんですけども、普通、ホームページなんてなかなか見ないですよ。ねえ。だから、各自治会にアンケートを絶対取るのがこれは必要だと思います。なぜかと言えば、先ほど言われたような方もいましたけれども、表に出てきてこのような意見を言ったらばという、何ですか、思う人もおりますんで、アンケートを取れば、その中にいろんな自分の思いを書いたただければ、その人たちの声がね、大学のほうには通じていくと思います。そこはね、この近隣の七つぐらいですか、自治会を目標にしているみたいですけども、その辺のところはね、よく考えるべきじゃないかなと思います。

それで、私をもっと言いたかことは、これは今、答えがあったので言っていますけれども、このエボラというのが 80%の人が亡くなりますよね。感染した場合にはね。たしか、もしかしたら 90%かというふうな形も、そういう資料も見れます。それで、この治療が行われない人の場合には、10日で亡くなると、10日間で亡くなるというようなことも聞いています。ザイール株というんですか。国のザイールってありますよね。あそこの名前を取ってからのことでしょうか。何か五つばかり株があるみたいですね。

それで、防御服を着た場合、防御服を着て、これをそのまま病院で乾燥した場合には14日間、これが菌がなくなる、死なないということ。それで、エボラで死んだ人の体内に7日間、感染するウイルスがそのまま残っていると。そういうふうなことも書いております。

それで、ギニアの男性の人が、治療で治って、これが約500日間、体液が残っておって、それで10人の方がそれを感染されて、8人の方が死んだと。また、別の地域の男性が470日保菌をして、これは治った方ですよ、一応。治った方で、保菌をして、自分の子ども2人に感染させたと。こういう資料もありました。ご存じですか。

こういうふうなものを、大学としてここに、私はホームページに書いてあったのをコピーしましたけれども、さまざまな感染から社会を守り、社会の安全・安心を確保するのが目的だと書いています。こういうふうな目的に考えて、ウイルスは、先ほども漏れると言いましたよね、はっきり。これは前々からそういう話が出ていますけれども、これが漏れるということはどういうことなんですか。私たちにそれが移る可能性があるということでしょうか。ここの地域の方々。そういうことは頭にありますか。

調さんのところはすぐ近くですから、すぐ影響があるでしょう。あなたのね、子ども、孫、その先々の方々もこういうことが考えられるんですね。その辺のところは考えました？ 私たちが一番心配するのは、子々孫々まで、この建物が建った場合にはこういうふうな不

安を抱えながら、移る可能性があって死んでいくというようなことを一番心配するんですよ。その辺のところはね、一生懸命やってから、建設のことで頑張っていらっしゃるのはね、やはり上の方々の考え方から、そういうふうに押し切られてやっていると思いますけれども、何でこの住宅街に、この密集地にそういうものを造るんですか。これが皆さんに感染したら、そのような考え方に立つということは、私たちに死ねということですよ。死ねということをおなたたちは言いよつとですよ。現実には。そう考えられません？ 調さん、いかがですか？ （拍手）

司会

調先生、お願いします。

調

ご指摘のとおり、私の家は、建設予定地から 100 メートルぐらいですね。前、70 メートルと言ったんですけど、測り直してもらったら 100 メートルぐらいですね。失礼しました。僕は指でこうしてこんくらいと言ったら、ちょっと違っていました。

個人的なことを言えば、今の家に子も孫も住むということでございますので、そういう危険なものを造る気はさらさらありません。建物からウイルスがふわふわ出てくるということはありません。

大規模な事故が起こったとき、どうなるかという話がありますが、例えば大きな火災、爆発が起きたときに、これはウイルスというのは燃えればすぐ駄目になりますので、だいたいもう 60 度とかなったらたぶん失活するので、100 度、200 度といたら、絶対にウイルスは灰になります。そういうことも含めて、建物からふわふわウイルスが出てくるということに関しては私はないと断言していいと思っておりますし、そういうふうには造るということですよ。

今、道津さん、神田さん、梶村さんにご参加いただきながら、地域連絡協議会という中で、どういうリスクがあるのかという洗い出し作業を一生懸命やっております。大きく分類して 169 個の事故の芽みたいなものがあるということをお我々のほうから申し上げて、それを一つ一つつぶしていくということをやっておりますし、ヒューマンエラーというのが起こることについては、我々も当然人間は間違ふ。間違ふけれども、それはハードやソフトできちんとカバーする。2 人の人間が 2 回続けて間違っても危ないことが起きないというためにはどうしたらいいのかというのを今一生懸命議論をしておりますし、その議論に、昨日も神田さんから厳しいご指摘をたくさんいただきました。それを計画に反映していくという作業を延々とやっているということですよ。

ですから、皆様の命を施設ができることによって危険にさらすということについてはないと我々は信じております。こう言うと、福島の時もそう言ったじゃんと言われるんですけど、それは、一つは、我々は学ぶということがありますので、そういう経験からきち

んと学ばないといけないと思います。

それから、基本的にウイルスと放射線は全く違います。放射線は半減期、1秒、2秒というのがありますけれども、何千年というのがあります。ウイルスは、先ほど詳しくいろいろ例を述べられましたけれども、普通に机の上に置けばたぶん数時間で失活します。特殊な条件であれば1日、2日というのものもあるのかもしれませんが。ただ、基本的に、先ほど安田のほうで申し上げましたように、人から人に、エボラはいったん感染をすると、結構、死亡率8割、9割というのは、手遅れのレベルで見つかったアフリカの現地の人たちの死亡率ですので、先進国だと、治療に関わった人の医師、看護師が感染して、10人ぐらいのうちたしか2人ぐらいが亡くなっていると思います。違ったっけ。

安田

20%ぐらい。

調

だから、死亡率は先進国だと20%だと思われる。じゃあ、2割だったら死んでもいいのかということ、そんなことはないですよ。そこから、それが基礎データで、それにそうならないようなデータを積み重ねていくというのが研究者のやることですね。

私のほうから、取りあえず以上で。

司会

ありがとうございました。どうぞ。●人から先に。

住民

平和町に住んでおります、ちょうど●の真ん前におりますけど。

今、非常にウイルスが弱いとおっしゃったですね。弱いウイルスを保存させる技術を開発されて持ってこられると解釈する。要するに弱いウイルスだから、それをいかに強くさせて、保存しないといけないかということですよね。だって、死んだら研究できないからね。生かしておかんといかんでしょう。そのための技術は相当なもんだと思うのですよね。生かすための技術。

要するに、死なせるために持ってくるわけじゃないですね。生かすために持ってくる。ということは、生かして、増殖させて、そして、それを、感染力を試しながら、感染しないようにという研究でしょう。だから、いかに強くさせるかですたいね、目的は。感染すりゃすぐ死ぬようなのを持ってきて、また取りに行くと、そういう努力はされんでしょからね。ということは、非常に強い菌、ウイルスでないとその研究には適していないと。もしくは多量に持ってこないと研究には適さない。1匹ぐらいじゃ駄目ねということを知りました。

あと、そういった今まで8年間も建設に着手されないということは非常に評価に値すると思うんですよね。住民の理解を得るといふ努力をするなんてあり得ないと思うんですよ、普通はね。どんな反対してでも何でも建てますからね、国家権力で。そしたら、それなのに、その8年間も大学側が努力されたということは非常に評価すべきことだと私は思うのですよね。

ということは、何遍聞いてでも反対の声というのはなくならないと思うんです。恐ろしいからね。どんどんいっぱいさせていくウイルスを目の前にするのは恐ろしいです。誰でも。そしたら、100%なくならない反対意見をどの辺で収束させて建設に着工されるかという、そのパーセンテージを、反対のパーセンテージはどのくらいになればいいんでしょうかね、というのをお尋ねしたいんです。(拍手)

司会

続けてちょっとご意見をいただきます。

住民

江平に住んでいます。

何日か前はかなり立派なパンフレットが配られて、これを読んだら、非常に、ああ、BSL-4施設って安全だなと、さらっと読んだら思えてですね。しかし、いろいろ読みながら疑問はあります。最初に学長さんのあいさつの中で、一番最初に、長崎は多数の国際クルーズ船が入港、非常に多くの方が外国から来ると。長崎よりもっと多いのは東京、大阪です。こういうところにまず造るべきじゃないでしょうか。

中身の中で、なぜ坂本キャンパスかというところで三つの理由が書いてありました。一つは大学病院があるから、そこで患者を迎えられると。二つ目は、研究者がたくさんいるということ。3番目ですね、震災や水害など、災害に強い土地だと。これは皆さん、どう思いますか。長崎大水害、7.23大水害がありましたね。雲仙は噴火があって、その昔、江戸時代は出島の教会は雲仙の噴火の石で教会のてっぺんは飛ばされたんですよ。そういうことで、こんな災害に強い土地なんていう表現が当てはまるのかどうか、非常に僕は疑問であります。

長崎のこの坂本キャンパスに持ってくる最大の理由は、何年か前の説明会で、安田先生がおっしゃいました。研究者が自宅から通えるところがいいと。大学病院での仕事もしたいと。仕事がいっぱいあると。そういうことはぼろっと本音だと、あのときの発言は私は思いましたけども。そのことが最大の理由じゃないでしょうか。そういうために私たち近隣、周りの住民が、もしあの施設ができた場合、毎日ストレスを抱えて生活する。寝ても覚めてもあの建物がある。そういう不安な生活は、私たちは過ごしたくありません。(拍手)

司会

ありがとうございます。もう少し、この件に関して意見が本当にたくさんありますので、同じことを大学の皆さん、先生方は、何かへきえきするぐらいのことだと思うのですが。そうではなくて、やはり今のお二人もおっしゃったように、本当に心の底からの気持ちで、なぜこんな住宅地に危険な BSL-4 施設を造らなきゃいけないのかと。何度大学から説明を聞いても、全く理解できないと。

本当、ここは地元で大丈夫ですよと、私もずっと出ていますので、聞いていますし、そういう施設に関してはいろいろリスクに対する対応をしてくださいたいということも申し上げるのですが、やはりこの心情というのは危険とずっと隣り合わせで、病気の場合もそうですよね。何か原因になるものを持っていて、これがいつ爆発するかわからないという恐れと同じで、万が一のことが起こったらどうしようか、どうなるんだろう。そしたら、自分たち、死ぬんじゃないか。もう大げさと思うかもしれないのですが、一般の人はそうなんですよね。それをやっぱり自分の時代だけではなくて、子どもや孫、それからずっとこの地域の中でそれを抱えていくストレスというのはやっぱり相当大きいので、これを持っているがために起こる病気というのもありますので。先ほど平和町の方がおっしゃってくださったように、これをどのくらい反対を続ければ、反対があれば考えてくださるのかと、大学の思いですね。そこをちょっとお答えいただければと思うのですが、どなたにお願いできますか。安田先生？ 調先生？ 皆さんにお答えいただいてもいいんですけどね。

住民

何%反対するならば着工するかとお尋ねしているんです。

司会

そうですね。

住民

要するに 10%ぐらいの反対なら着工します。その言葉をお尋ねしているんです。だから、幾ら反対すれば●。(拍手)

司会

何%の反対があれば続けるのか。

安田

その前に、ちょっと何名かの方にご質問いただいた中で明らかな誤解があるので、それだけ私からちょっとご説明。

司会

いいです。

安田

まず、最初のご質問をいただいた方が、強いウイルスを作るんじゃないかというお話があったんですけども、感染力を強くするようなウイルスは作りません。それはそういうウイルスを作ること自体、リスクだと考えていますので、たぶんそういった実験申請をしても国の許可が下りないと思いますので。

ただ、じゃあ、どうやって運ぶのですか。そんな弱いウイルスをどうやって運ぶのですか。ウイルスは温度をかけると、温度とか乾燥には非常に弱いのですけれども、我々、実際ウイルスを使って実験するときには、マイナス 80 度とか、マイナス 160 度という状態で凍らせて長期保存します。ですので、運ぶときもそういった凍らせた状態で運ぶことによって、壊れないように運ぶことができます。ですので、強いウイルスを作るとのことと、じゃあ、保管が長期間できるかどうかというのは全く別の話ですので、そこは誤解のないように、凍らせることによって長期間保存できる、輸送できるというご理解をいただければと思います。

それから、江平の住民の方からのご質問、ご質問というか、私が何か自宅から通えるところだからここに造るのだと言ったとおっしゃるのですけれども、私自身は、最初に後ろの方かな、この近くに住むことをどう思うかとおっしゃったのですが、私は以前から、別にこの施設の中に私の住居を造ってもらえるんだったらこの施設の中にでも住みますというのをずっと申し上げております。それだけ安全度に関しては自信を持っています。

それから、自宅から通えるからここだというのは、たぶんそういう意図では絶対に言っていないです。なぜかという、私は職員住宅に住んでいますので、別にこの施設がどこかにできて、その近くに当然長崎大学の職員住宅ができるでしょうから、どうせそこに住むので、別に住んでいるところこの施設の距離というのは全く関係ないというのは訂正させていただきます。

司会

そうしたら、すみません、皆様のご意見で、それぞれお考えがあるでしょうから、何%ぐらいの反対があれば建設をやめるのか。

嶋野

事務局の一員として率直に申し上げます。●教員の考え方は後からご紹介があります。

正直言って、今の段階で何%なら着工をやめるか、私は残念ながら答えを持ち合わせておりません。お叱りを覚悟で申し上げますが。

それで、この数年間、この仕事に従事をしておりまして、いろいろ厳しいお声を、今日お越しの方、何人かの方からもいろいろいただいております。考えを変えていただけない方も確かにいらっしゃるのですが、考えを変えていただける方もいらっしゃる。

それから、長崎大学が信頼できるならば住宅密集地に造ることも認めるかもしれないという、非常に厳しい姿勢の方からそういうお言葉をいただいたこともあるということで、私の率直な考えとしては、少しでも信頼をしていただけるように、少しでも考えを変えていただけるように努力を続けるしかない。ご満足いただけないことは承知しておりますが、率直に申し上げると、そういうふうに考えております。

司会

安田先生。

安田

大変難しいんですけど、私、実は 2010 年 12 月に長崎大学に参りました。それからずっと 8 年ぐらい、この活動をずっと続けております。その中でずっと説明会等もやらせていただいているのですけれども、皆さんはそんなに理解は進んでいないとおっしゃるのですけれども、私自身は、その当時から考えると、ずいぶんいろんな方々がこの BSL-4 施設に関して関心を持っていただいていますし、理解は確実に進んでいると考えています。

最近はやっていないのですけれども、以前は市の図書館とか、ああいうところでも広域の説明会というのも行っていましたし、そのときにいろんな方々とお話をする中で、あ、よくわかりましたという方も多数いらっしゃって、頑張ってくださいと応援してくださる方もいらっしゃいます。ただ、私の感覚としては、そういう理解できましたとか、賛成ですという方は、その後、あまり説明会等にも来られないんですよね。ですので、もっと知りたいとか、いや、反対だから反対の声を届けたいという方は熱心に通ってくださるのですけれども、必ずしも私自身は理解が進んでいないとは思っていないという現状です。

何%かということに関しては、別に何%という数値は私自身の中では設定してございません。

司会

ありがとうございます。調先生、お願いします。

調

あらかたお二人がお話になったのですけれども、こういう今日のような取り組みも含めて、粘り強く説明を、これまでもやってまいりましたし、今後も続けていきたいと思っております。

今日、結果的にどうかということとはともかくとして、こういう会をやると、本当によく

わかったと言ってくれる人も結構おまして、それから、昨日の地域連絡協議会も、久しぶりにおみえになった方が、感想として、ずいぶん雰囲気が変わりましたねとおっしゃいました。

そういう意味で、私たちもお話しする内容も、その8年前、5年前、3年前、いろんなところでお話をさせていただきましたけれども、計画が具体的になるとお話しできる内容もどんどん増えて、正確なものがお話ができるようになってきていると思いますし、そういう中で、こういう会は、我々は今具体的に何%というお答えを持ち合わせてはいないのですけれども、仮に着工しても、あるいは仮に完成をしても、あるいは仮に動き始めても、ずっとこういう会については続けていきたいと思っておりますので、今後ともご理解をいただくような努力は続けたいと思っております。

住民

もう一つ質問してもいいですか。

司会

すみません、あと、先生、もう1人。

中嶋

やはりなかなかどのぐらいということは申し上げにくいところなのですが、どんな事柄でも、どっちにやるかというときには必ず反対とか異なった意見というのが出てくるものだと、自分の中で、これまで生きてきた中で理解しております。ただ、そういった中でどちらかを選択して進むという場合には、もう一つの意見のほうにあるということは絶対に忘れずに、そういった意見に向かい合っていくというのが欠かせない選択をする場合の対応じゃないかなとは肝に銘じております。

以上でございます。

司会

ありがとうございました。ちょっとすみません、先に……。

住民

●。

司会

一言、ちょっと黄色の方、すみません。

住民

そんな大したことじゃないんですけどね、長崎大学を信頼している、していないとかいうわけじゃないんですよ、私はね。免震データの改ざんとかいうのがこの頃出てきましたけど、建物を建てるのは先生方じゃないですもんね。それで、そういったほかの要素、要するに、例えば朝鮮からミサイルが飛んできてぼかんと落ちるかもしれない。

それで、先ほど調教授さん、教授ですか、すみません、調教授がおっしゃったように、もし爆発してもウイルスが逃げることはありませんと、確実な言葉をおっしゃったように見えますけど、そういうのは人智の計り知れないところじゃないですか。そのウイルスに聞いてみないとわからないじゃないですかね。どんなやって出てくるのかもわからないからね。確実な研究があって、確実なデータがないから研究したいわけでしょう。それなのに、間違いありませんという言葉が言われるということは、そんな研究する必要ないじゃないですかというような返事なんですよ。（拍手）

だから、そういう意味で、別に先生を信頼していないんじゃないんですよ。世の中のことを不安に思っているから、私ね、大学は信頼できるけど、免震データの改ざんをする人がいるから、そういうのはどうするんですかって。どんなして防ぐんですかと聞いているんですけど。

司会

先生、その前にお一人、手が挙がりましたので。

住民

近隣で、昨日も協議会、聞かせていただきました。長く聞かせていただいて、人生がすり減っています。

本当、3年半、長崎大学劇場って僕は付けているんですけども、水戸黄門よりすごい中身で、面白いというよりも、こちらが辛い思いをしているんですけども。

一言、余計な質問はなるべくしないようにして、一つ、二つ、三つ、簡単に質問します。

一つは、先ほど言ったように、なぜ坂本だったのか。説明では上手に、一部どこでしたかね、木鉢の先の神ノ島か、候補地ということが言って、あとは何かそのところの人に迷惑かけるから言わないようなことを嶋野さんがおっしゃったですね、それは。説明を受けました。しかし、じゃあ、なぜ坂本かということにやっぱり納得がいかないというのがここに来ている人たちの気持ちだと一つは思います。

それから、二つ目は、BSL-4 施設というので、何年前、2年ぐらい前ですかね、ドイツのギュンター博士が来られたとき、施設、7デイということだから、7日間で、24 アワーズ、要するに稼働をずっとしているということで、NHK で放映されたのがあるんですけども。施設の内容についてなんですけど、昨日は労働時間が非常に大変なんで、1日、1人3時間から4時間ということでお聞きしました。聞きたかったのは、たぶんそれ以上に交代で

稼働させるという、そういう施設の活用の仕方になるんでしょうかね。そこはちょっと聞きたいと思います。

それから、もう一つなんですけど、今日聞かれた方は計画参謀としてずっとやられてこられて、これからもやっていかれるかもしれませんが、命は、仕事をする期間というのは短いので、10年はすぐたってしまって、じゃあ、その次に引き継ぐ人に、ここに建てたという仮定の下では、どんな形で傳承していくのかなと。今の雰囲気というのはもう次の人に伝えることはできませんよね。文章化してできるかもしれないけど、気持ちを伝えることはそう簡単じゃないですよ。極端な言い方をすると、2代目、3代目ということで、人が変わっていくでしょう。皆さんはここで成功して、また偉くなってどこかへ行くのでしょうかけれども。

現実、僕ら自体がここにずっと、さっきから言っているようにとどまっているから、だから一生懸命、地域協議会にも顔を出すし、勉強もさせてもらっています。だから、いい加減だったら、反対のための反対だったらこんなことはしませんけど。だから、大学の意見もよく読ませていただいて、考えてはいますけれども、やはり、ちょっと大学劇場と言わせてもらったように、大学のちょっと言ったら押しつけがましい、一方的な部分もかなり多いので、やっぱりこういう場をいっぱいつくって、理解を深めたいというのだったら、やっぱりやっていく努力は必要だし、次の引き継ぐ10年後、20年後と、これって50年も100年もお付き合いをせんばいかん施設でしょう。そこまで含めたところで、あなた方はできたら万歳ってなるかもしれないけど、僕らにとっては悪いけど気持ちは不幸ですよ。

以上、3点お答えください。(拍手)

司会

ありがとうございました。ちょっと長い質問になりましたけど、お答えいただいているんですね。

調

我々にとってはとてもタイムリーに免震ゴムの改ざんの話、ダンパーですかね、改ざんの話が出て、驚いていて、どうしたものかなと思っております、正直なところ。わかっていることは、一応日本に代表的な会社が3社あって、そのうちの1社が最大手の会社らしいんですけど、その業界ではですね。そこは当分、もう仕込んだダンパーの取り替えで、新規受注は2、3年はできないだろうと聞いております。

ですので、現状、そういう明らかなペナルティを起こしたという会社の一番たくさんやったところについては、我々としてはお付き合いできないと考えていて、残りの2社が、じゃあ、黒じゃないのかということに関してはよくわかりません、正直言って。まだ調査中なんじゃないのかなと思います。自己申告としては、1社は幾らかやりましたみたいな話になっていて、残りの1社はまだ報告ははっきり出ていないのじゃないのと思

ますけど、そこはもう待つしかないですね。

そういうことがほかにも出るんじゃないのかと言われると、僕らにはさすがにそこまでの権限はございませんので、いい会社を選んで、設計図どおり造られているかどうかを確認しながらやるというぐらいのことしかできないというのが現状です。

免震装置に関しましては、そういうことで。そういうことがどこにもあるだろうということはそうかもしれないですけど。ただ免震に関しましては、実は長崎県に想定されている最大震度は6.5、6.5強かな、6強だ、ごめんなさい。というのが最大の、島原半島から橘湾のところにある断層が一番大きくずれたときにそういうことがあり得るといわれていて、東南海地震も含めて、それが一番想定震度が高いのですけれども。我々、熊本のを見て、やはりそういう科学的なデータとしてはそれしかないのですけれども、震度7でいきましょうということで、震度7対応にできるようにということを考えております。

普通の、例えば長崎でいうと、県庁、県警は免震ビルになっています。実は残念ながら長崎大学病院は免震にはなっていないなくて、制震構造という、耐震構造ですかね、どっちかな。耐震構造になっています。話を聞きますと、普通、免震って、要するにお皿が揺れるのを防ぐのですね。その上に建物を建てる。免震をやるときには、上に載せるものは本当は軽いほうがいいそうです。そういう特殊なお皿の上に建物を建てるので。だけど、我々としては、免震の上に耐震構造を載せるということを今考えておまして、そういう準備をしておりますので、仮に免震が十分機能しなくても、地震対策に対しては、揺れはある程度、仮にそういうダンパーの不具合があったにしろ、建物としては大きく壊れることはない、今考えているところです。

取りあえず、地震については以上でございます。

安田

それ以外のところで私が。

司会

少し短めをお願いしますね。

安田

まず、ドイツのギュンター博士が来られたときに、24時間、7デイズ稼働とおっしゃったということなんですが、これは稼働であって、この施設は常に空調とかも動かしていますし、外に漏れないように密閉構造で、さらに陰圧制御といって、実験室の内側に向かって空気が流れる構造を常に維持しています。ですので、稼働という意味においては、24時間、365日稼働しております。実験者が実験する時間ということに関して、昨日もお話したのですけれども、同じ実験者が長時間連続で作業をしないようにということで、3時間ないしは4時間ぐらいを今想定しているということです。それから……。

住民

そしたら、●3時間、2時間、例えばその日に1班、2班、3班とか、僕がわからないから聞くのですが、そういう1日に稼働時間というのは、1人はそうであっても、2組、3組目とか、そういうことはないのですかね。

安田

たぶん2組ぐらいはあり得ると思います。例えば、1グループが3時間やった後、また1時間ぐらい間を置いて、また3時間ぐらい別のグループがやるというのは想定されるのですけれども、まだその辺をきちんと決めていませんので、想定されるということだけ申し上げておきます。

住民

そしたら、夜中までどうこうということじゃないということですね。

安田

基本的には夜中まではやらないです。

住民

よかですかね。

司会

ちょっとこちらの。

安田

次世代になったら、考えとか、そういうのが引き継がれないのではないかとご意見をいただいたのですが、これはどういう組織でもそうだと思うのですが、個の力に頼るような組織運営というのは破綻すると思っています。ですから、組織としてきちんと継続性を持った運営、責任が持てるような体制というのをきちんとつくるという意味においては、地域連絡協議会、施設が稼働した後も、名前は変わるかもしれないですが、地域の皆様の意見を伺う委員会等は設置する予定でおりますし、マニュアルとか、稼働の手順とか、そういうのはずっと引き継がれるものですので、人が変わったら安全性が担保されないということはないと考えています。

司会

ありがとうございました。先ほどの方。

住民

浦上のね。まだ質問に答えていない、原爆とかさ。

司会

その後ろの方が。すみません、後ろの方がちょっと手を挙げていらしたので。それと、すみません、今日は、地域連絡協議会で出ている私たちはいつも意見を申し述べる機会がありますので。

住民

答えを言っていない。

司会

だけど、答えてもらうようにしますけど、今日はちょっと一般の皆さんの。

住民

僕は言ってない。

司会

そうですか。

住民

答えを言っていない。

司会

わかりました。

住民

原爆とかさ、キリシタンとか、4番崩れの答えを言ってない、浦上の。

住民

ちょっといいですかね。私、この紙、A4、1枚、ポストの中に入れて、これを見たのですけどね、この中で長崎大学は最初の●住民の理解と信頼に基づき、合意を確認することなしに12月も着工予定であることを新聞、テレビ等、マスコミ等で公表しております。私は建設的に考えますときに、確かに必要であつとですよ。だから、施設内の、結局は外部の外気と内部の気密性、それがどのくらいの差で決まるわけですね、飛散は。飛散する、

しないは。結局、その気密内が低ければ飛散せんわけですね、菌を幾らなんでも。それが一つ。

そして、これを建設的に考えたときに、例えばこの施設ができる過程で、この住民の方が視察ができますか。それをまず、視察をしながら、これはこう、これはこう、説明をせんと、やっぱり不安はずっと続くわけですね。だから、今、先生たちがそのこのマイクを通して言うけど、ちんぷんかんぷんの方がほとんどだと思いますよね。その安全性、安全性と言うても、どこがどがんふうになっとか、説明すれば、例えばこれがさっき言ったようにダクトで外気に出しますとか、これがダクトですよと、これは気圧が10度なら10度、こっちが200気圧ですよとすれば、出るんですね。そのような説明を請いながら視察をすれば、住民の方も安心して住まわれるわけですね。ただ単にぼんぼんぼんぼん言われてもわからんわけですよ。確かに建設的に考えるときに、やっぱり必要じゃあつとですね、これは。私はそがん思います。

だから、これに書いているように、12月の着工予定であるということは、まずは99%着工するということですよ。私から言わせれば。だから、それを踏まえて、やはりまず飛散、さっき言ったように、内部、外部の気密性、それから徐々に建っていく工程ですね。その視察を住民の方に受け入れてもろうて説明を請うと、そういうふうな工程であれば、私は別に問題はなかとと思いますけどね。

以上。

(「問題ある。問題あります。問題ある」の声あり)

司会

どうぞ。

住民

2回目ですけれども、もう短めに言いますが、この建設をする前に日本学術会議の諮問を受けましたよね。その中で、この建設をするのには、住民の合意を受けて、取ってから建設するよということと、それから、建設学会では、商業地、住宅地には造るようなことはなってはならないというガイドラインが出ています。ご存じでしょう。それを踏まえて造っているんですね。

それから、もう一つ、炭疽菌の研究も行うこともありますと、前の学長が言いました。これは空気感染しますよね。過去にソ連で六十数名の方が亡くなって、4キロ先の家畜まで死んでしまったと。そういうふうな事実があるわけですが、これも研究しますか。いかがですか。

司会

1回、そしたらお答えください。

安田

最初の方、まず、たぶんこの施設の使用に関する情報があまり広く、我々はパンフレットを作ったり、いろいろな説明会でも説明させていただいているのですけれども、たぶん説明された方のほうまでうまく届いていないなという感じがしたので、その点についてはちょっと反省して、また努力していきたいと思うのですけれども。

基本的にこの施設の中で扱う病原体量が、そもそも数ミリリットルという微量です。ですので、それが施設の外にダクトを介して漏れ出るといえるのは考えにくいです。ただ、安全には安全を重ねるという意味で、HEPA フィルターというのを設置すると。先ほど気密性とか気圧差についてのご質問があったと思うのですけれども、気密性に関しては、これはちょっと難しい話になってしまうのですけれども、カナダ基準という世界で一番厳しい気密性の基準がございます。これはたぶんご質問された方は、ある程度専門性を持っておられる方だと思うのでお答えしますと、200気圧の圧をまずかけて、その後、20分以上かけて、50まで下がるのを、20分以上かかる……。

住民

200気圧ですか。

安田

はい、200から50。すみません、500パスカルと。

住民

200気圧といたら、もう●。

安田

すみません、500だそうです。

住民

●。もう、海の2,000メートル潜ったところですよ。

安田

失礼しました。500から250ですね、パスカル。すみません、それが20分以上ですかね。

住民

200 気圧は人間も住まれませんよ。

安田

ええ。ですので、かなりの気密性の高い構造と。

調

ちゃんと言い直さんば。500 パスカルが 250。

安田

500 パスカルが 250 パスカルになるのに 20 分以上かかる。それだけ漏れが少ないという、すみません、正確性に欠いた話で。それから、気圧差は、各部屋、何段階に分けて気圧差を取っていて、一番病原体を扱うところが一番気圧が低くなっています。ですので、それは数十気圧ずつ下がるようになっていて、最終的には一番病原体がいるところが気圧が低いような構造になっているという。

住民

そしたら、減圧器で、ずっと各部屋で減圧しながら外に出るのか。

安田

減圧というか、要は圧力は給気と排気のバランスですので、その部屋の気圧を下げるという流れになります。

それから、住民視察に関しましては、我々、できたときには住民の方々の視察を受け入れる予定でおります。ただ、セキュリティの問題もありますので、どうしても入っていただけないところはあるかと思うのですけれども、できるだけ地域の子どもたちにも、こういったちゃんとした施設があるんだよというのを見せたい、科学への興味を持っていただきたいという部分もありますので、住民の皆様への視察というのは考えております。

それから、炭疽菌の実験をやるか、やらないかということなんですけれども、その炭疽菌というのは、もともとは BSL-3 の病原体というのはたぶんご存じかと思います。それで、炭疽菌とウイルス、細菌とウイルスというのは、通常は同じような実験室では使わないのですね。そういう意味では、基本的には炭疽菌の実験は行わないです。ただ、何かテロみたいなのが起きて、BSL-4 施設でそういったものを研究しないと国民の安全が確保できないというような状況になった場合には、それは可能性がないとは言えないですけれども、あくまでも原則としては炭疽菌を扱った実験は行わないと申し上げたいと思います。

司会

ありがとうございます。少し12時が近づいてきましたけど、まだ先ほど質問の方のお答えもしてもらっていなかったなので、少し延期したいと思いますけど、よろしいでしょうか。お願いいたします。どうぞ。

高谷

平野町山里です。

ちょっと大事なことを自分は今日用意してきたつもりなのですが、それは情報公開、それと、それに関わりますけど、チェック機能、施設のチェック機能についてなんですけれども。私は地域連絡協議会、できるだけ傍聴しております、何回前ですかね、委員からの質問とそれに対する大学の回答を聞いて、まさに愕然としました。既にある既存のバイオ施設に関する情報公開請求についての質疑応答です。情報公開請求に対して、大学側は100%黒塗りで対応していた事実について質問がなされていました。これです。「もらえんと」という声あり）後で回します。それに対する長崎大学の回答は、一言で言うと、これでいいのだというものでした。エボラなど最も危険なウイルスを扱うBSL-4施設において、地域住民の安全に必要な情報公開というものが有名無実になることを強く危惧しています。長崎大学は世界最高レベルの施設を目指すと言っていますけれども、何が世界最高レベルなんですかと思えます。

もう1点、すみません、チェック機能なんですけれども、さっき話が出ましたが、バイオセーフティ管理監という制度を用意しているみたいなんですけれども、これはあくまでも内部チェックなんですよね。これでは地域住民にとっては全く納得できないし、安心できるものではありません。これもやはり世界最高レベルが聞いてあきれられるのではないかと。今どき、このような施設に外部からのチェック機能を入れるのは世の中の常識です。事実、田上市長も地域住民との対話で、外部からのチェック機能について、その必要性があると明言しています。

ということで、第三者、どういう形かはまだわかりませんが、内部だけではなくて、外部のチェック機能というのは絶対に必要だと思いますので、やっぱりそういったところから、そういったものを、さっき信頼とありましたけれども、やっぱりそういうところから信頼というのが出てくるし、これだけやるんですよと、これだけ情報公開もするし、チェックもするし、だから、そこまでやるんですよということで、住民も本当にやるんですねといったところが本当の信頼関係じゃないかなと自分は思います。

以上です。(拍手)

司会

ありがとうございました。ちょっと先生、お答えしていただく前に、池田さんが、さっき答えがなっていないということをもう一度●。

池田

山田さんがですね、質問していた、4 番崩れのあったところと、原爆があったところで、次に起きたら3 番目の崩れが起こる。そういうことに対して、なぜここに造るのか、説明していない。

司会

そうしたら、今の質問……。

住民

そしたらさっき言った、1 番目のなぜ坂本になったのかという経過については●直接聞きたいです。●ください。

司会

そしたら、今の分と高谷さんからの分で、ちょっとまとめてになりますけど、それぞれお答えください。

まず最初のほうからなので、浦上に関して、ここにできたとしたら、3 番目の被害になると。これについてどうお考えでしょうか。

調

ありがとうございます。その三つを並べてつながったものだと言われると、なかなか厳しいなという気持ちもないわけではないのですけれども。医学部は百二十数年間、この地にやって来て、開学はもうすぐ 160 年になりますけど、今の場所に坂本キャンパスができてからが百二十数年になりますね。熱研が 75 周年をこの前やりました。だから、そのぐらいの年齢、戦中にできて、ずっとあります。

そういう意味では、医学部も熱研もこの地域と共に生きてきたと我々は思っているところですし、私自身も 60 年以上、途中あちこちに出はしましたけれども、暮らしてきておりまして、暮らしながら、なかなか地域の人々の一人一人の顔、それぞれのお考えというのは知らなかったということを、最近この取り組みをやって初めて痛感しているところですけども。

我々はこの地域にこの施設ができることによって日本を感染症から守るための砦ができると考えていて、そういう意味で、世界に役に立つ、日本に役に立つ研究施設として育てたいと考えておりまして、決してですね、お気持ちはわかりますけれども、決して迷惑施設を造るというふうに考えているわけではございません。

司会

ありがとうございます。そしたら……。

嶋野

私からいいですか。さっき名前をおっしゃって、私の名前を。

確かに2年数カ月前の地域連絡協議会で坂本立地の説明をさせていただきました。そのことをよく覚えていただいている、大変感謝をしたいと思います。当時の資料を今手元で確認をしております、基本的には、先ほど安田から申し上げたとおりでございます。研究をするための基盤が、坂本キャンパスが一番整っているということと、それから、長崎はご承知のとおり、雨の多いところでございますので、自然災害、万が一の場合の想定をするときに、その雨のことも考えざるを得ないだろうということで、最近世の中で時々話題になっております行政機関が作った防災情報マップというもので、どの辺の地区がどれぐらい危ないのかというのを丁寧に色で塗られた資料があります。ホームページで見られるようなので、後でまたご覧いただきたいと思いますが、それを見る限り、坂本キャンパス以外に自然災害、それから道路アクセスの観点で安定的なアクセスが確保できる場所はなかなか見つからないということで、ご質問の方はご承知だと思いますが、当時の資料、私どもとしては、長崎市内では坂本キャンパス以外に適地を見いだし得ないというような評価をした上で地域連絡協議会でご説明をさせていただいております。

もちろん図面だけで判断をしておりませんで、何カ所か見て回っております。要するにその地点においては、主に災害面、あるいは道路アクセスの面で、問題があると私どもは評価をいたしましたので、そういう問題があるということ、個別の地区名を出しながらご説明をするというのは必ずしも適切ではないだろうということで、地区名についてはお控えをさせていただきましたが、ホームページ上、パソコンなんかを見ないよという方がおられて大変恐縮ですが、ホームページ上には当時の地図で行った評価を載せてございますので、もしご覧いただける場合は後ほどご覧をいただければと思います。

以上です。

司会

ありがとうございます。そうしたら、●ですかね。

住民

ちょこっといいですか。

司会

木村さんの質問に対する答えにはなっていましたでしょうかね。

住民

今答えていただいたことを●ここに住んでいる住民の気持ちと大学が自分たちは正しいんだという答えを出すための、私、最初から、有識者会議からずっと読んでいますけれども、答えありきは坂本なんですよ。上手に文章は構成されていますけれども。だから、それが見え隠れするから、今の説明は立派な説明かもしれません。あなた方にとっては。でも、悪いんですけど、もうこれ以上言いませんけど、私たちはどうしてもそれでは納得できないんです。ここで時間を取れないから、もう言えませんが。(拍手)

司会

一応、住民の……

住民

災害に強い都市は取り消されますか。災害に強い都市。強いんですか、長崎は。

司会

質問と考えていいですかね。

住民

先ほどの質問に答えていない。

嶋野

何のことをおっしゃられている。

住民

7.23 大水害もありね、雲仙の噴火。長崎では、このパンフレットでは災害に強い土地と書いてあるんです。うそですよ、これは。これを取り消されますか。7.23 大水害、あなた今、雨に弱いと言ったんですよ。(嶋野：ちょっと見せて頂けますか。)自分たちが作ったのはわかるんですから。

嶋野

すみません、担当が別なので。

住民

あなた自身も雨に弱いと言っているじゃない、今。

嶋野

長崎市内で見たとき、坂本は比較的強いという意味で申し上げました。

住民

それはそうっていないんですよ。長崎は災害に強い土地となっているんです。

嶋野

いやいやすみません、BSL-4 を市街地にある長崎大学坂本キャンパス内に設置する理由のところで、第3の理由は、震災や水害などの災害に強い土地と書いてありますので、私の説明とは矛盾していないと思います。

住民

長崎は災害●。

安田

長崎はとは書いていない。坂本キャンパスはと書いてある。

住民

次は、それじゃあ坂本キャンパスには水は来ないんですか。

嶋野

今のところは、まさしく●。

住民

想定外ですよ。

嶋野

57年の水害のときのことも我々は調べておりますので。

住民

想定外で何が起こるか、わかりませんよ。

司会

一応、住民の気持ちとして検討いただければと思いますので。あと、高谷さんからのご質問であった情報公開とチェック機能についての質問に対して、お答えをお願いします。

安田

お答えします。

まず、情報公開ですけれども、熱帯医学研究所のその施設の情報公開だと思いますけれども、黒塗りだったということですが、これはその情報公開したのに関して、適正であったかどうかというのが、不服申し立てのようなものがあって、総務省のほうで審議されています。その結果としては、やはりこういう施設ですので、病原体の名前とか、どこにあるとか、部屋の名前とか、そういうのは公開すべきではないという判断が下りて、黒塗りの部分に関しては全て適正であったという総務省からの判断が下りております。

それから、チェック機能に関しましては、先ほどバイオセーフティ管理監についての言及がございましたけれども、我々、これはさらにという意味でバイオセーフティ管理監を内部に置くわけで、そもそも第三者、外部のチェック機関としては、まずは文部科学省の監理委員会というのが既に立ち上がっていて、既に何回か開催されています。仕様から何からチェックされています。それから、施設稼働に際しましては、厚労省の立ち入り検査というのが、承認というのが必ず必要で、その後も現在の熱帯医学研究所の施設もですけれども、特定の指定された病原体を保管、管理、使用する施設に関しては、厚労省、それから警察庁の立ち入り検査というのが定期的にございます。ですので、今の施設でもそのシステムがございますので、BSL-4には当然その施設が適用されて、定期的に外部からの監査、視察というのは受けるという状況です。

司会

ありがとうございます。それでは……。質問ですか。

高谷

なかなか質問に対する答えが、全般的にですけれども、何となく行き違うような感じがするのですけれども。要するに今の施設でも黒塗りでこれでいいんだと、総務省も言っているんだからいいんだということできなしに、世界最高なんだから、世界最高ということは、今までの法律の枠も超えていいわけですよ。（「そうです」の声あり）ウイルスがどこにあるか知られたら困るから、そしたら、じゃあ、住民は何がやられているか、絶対わからないじゃないですか、これじゃあ。（「動物実験だから」の声あり）先ほどの炭疽菌だって、言ったら、炭疽菌を始めましたけど、これは公開できないですねって。

結局何が行われているかが、全くブラックボックスということを住民が一番恐れているんですよ。何が行われているかわからない。だから、心配だ。やっぱりストレスも感じるし。そういったところに全然真摯じゃないと自分は思います。

情報公開、ちゃんと制度を作ってください。住民が納得できるような。（「●」の声あり）今のことを言っているわけじゃなくて、これから造る世界最高レベルのものをどうすべきかということを探っているんですから、今のことを言っているわけじゃないです。

それと、チェック機能についても同じで、例えば住民参加型のチェック機能があっても自分はいいと思う。そういったものを新たに作り出す。今の法律ではなくて、BSL-4 というのは、今まで、今の日本にないものですから、これから造るものに対して、今のを当てはめればいいということではなくて、そこら辺は全然申し訳ないですけど、自分が言ったこととはお答えになっていないと思います。

以上です。(拍手)

司会

そしたら、今日お答えできない部分もあると思いますので、その辺をよくお酌み取りいただき、検討していただくようお願いします。

あと、皆さんのほうからご意見のある方はいらっしゃいますか。

住民

最後にですね、さっき言ったような意見●現場視察は各省庁の認可を得た後にさせるわけですか。これ（マイク）はよかです。

調

前です。

住民

ですよね。

調

前になると思います。

住民

前にせんと意味がないですもんね。結局、そうでしょう。各省庁が認可した後だったら、意味のなかですよ。その前に住民の方の目が、あら、ここんにき、危なかじゃとかね。やっぱりそういうふうな、それが認可後では、これはもうどうにもならんわけですね。だから、認可前に各省庁がずっと検査するじゃなかですか。その前に住民の視察をさせてもらいたいと思います。いいですかね。

司会

よろしくをお願いします。そしたら、最後の質問でよろしいですか。

住民

地域協議会でもたびたび出たと思うんですが、住民、市民の合意がなければというタグは、国から大学の本体まで同じタグを貼られているわけですね、最初からね、皆さん方。今、もうどういうわけか、12月の21日にもう工事着工しますって、それが先走って出てきていて、こういう基本的な集まりもずっと要求しているにもかかわらず、逃げ回ってきたと、僕は思っているわけです。これは学長に関しては、特に僕は、提案者ですから、絶対責任を果たしていないと、言い出した人がね。これは伝えてもらいたいと思います。片峰さんにはね。

だから、その言い出した人は、やっぱり常に、特にこういう場所には顔を出して、自分の手を挙げた計画というのが皆さん方にどういうふうに落ちているのかというのは、本当は言わなくても出てきて聞くべきでしょう。普通でしょう、それは。言い出しっぺなら特に。

ということは、さっきも言ったみたいに、住民の同意というタグは単なる空念仏で終わって、要するに工事は100回説明なんか聞きたくないというのがたぶん今日集まった人の中でも大半だと思うんだけど、毎度毎度、金太郎飴みたいな話をされたって話にならないので、これは永久に私たちが同意には近づかないと思います。もう最初からです、これは。一つも変わっていない、進化していないと思います。そういう中で、やっぱり工事着工というのは再考すべきだということを僕は訴えたいと思います。

以上です。(拍手)

司会

ありがとうございました。もう最後と言いましたけど、もうこれで一応締めてよろしいでしょうかね。

それでは、そろそろ、もう時間も延長になりましたので、私のほうから、今日の話し合いの取りまとめのような形で一言述べさせていただきたいと思います。

本日は初めて地元自治会主催ということで、住民の皆様と大学の皆様が膝を突き合わせた話し合いを行いたいということでお願いして、快く引き受けてお出掛けいただいたわけですが、大学の先生方にも住民の皆様にも、本当にここで深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

しかし、聞いておりました、多くの方々の意見は、BSL-4施設の重要性というのは理解できるという人もいますし、どうしてもこれは許せない、反対だという人もいらっしゃいますけれども、危険度の高い施設に対する不安がありますと。未来永劫、そのことによってつきまとうような恐怖とストレスにおののいて暮らしていかなければならない住民がいますと。その皆さんの率直な思いが語られたのではないかと、今日聞いていて思いました。

こういうことを、やはりもう少し大学の皆さんが、一方的な説明会という形ではなくて行っていただけたらよかったのかなと、過去のことはなりますけど、そういう思いもあ

りました。しかし、現時点では、住民を置き去りにして建設にもう既に進もうとしている状況が見えますので、そういう大学の姿勢と住民の間に大きな乖離があると感じました。それによって、最も大切であるはずの住民の理解と相互信頼に基づく合意というのはできていないのではないかなと、今日感じました。(拍手)

私がここで最後にお聞きしたいことがあります、大学の皆さんにお聞きしたいんですけど、この状況のままで12月21日の着工を行うのですか。ぜひこの場でお答えしていただきたいと思います。(拍手)どうか皆様の心情に思いをいたして、地域に寄り添って、12月21日の着工をするのかどうか、お答え願いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

調

ありがとうございます。12月21日につきましては、従前から申し上げているわけですが、早ければ12月21日を目指したいと言ってきておりますし、それについては現状変更はありません。そういう意味では、いわゆる着工します、この日に着工しますという宣言をしたということではございませんので、今日、結論めいたことを言う、この場で言うつもりはございませんが、今日のご意見を参考にしながら、総合的に判断をするのかなと思っておりまして、持ち帰って検討したいと思います。

司会

そしたら、ぜひ、皆さんの気持ちを真摯に受け止めていただいて、一方的な大学のやり方で貫くということではなく、検討しながら進めていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、そろそろ時間になりましたので、これでおしまいにしたいと思いますので、最後に主催者の梶村会長のほうからごあいさつを行いたいと思います。

梶村会長

長時間の質問会というふうに今日は銘打っていましたが、長時間お疲れさまでした。大学の先生たちも本当、矢面に立つのはわかってちゃんと来ていただいて、きちんと答えていただける質問についてはちゃんと答えていただいて、はぐらかされるところははぐらかせていただいて、大変よかったんじゃないかと思います。

それで、今日話を聞いていて思ったのですが、大学もここに来ている人たちも、同じまちに住む住民です。大学としては国からもお金をもらって進めないといけない事業なんだとは思いますが、125年ですかね、120年前から一緒に土地で暮らしているわけですので、そこを合意とというか、隣近所の人たちの声はちゃんと聞いて、これからたぶんまた大学も100年、200年と続いていくでしょうし、ここに住んでいる人たちの子供たちとかがずっとまた一緒にここで生活するわけですから、建てて終わりというようなことだけは絶

対しないでいただきたいと思います。

これから本当に、同じところに住んで、同じまちで一緒に発展していくというような気持ちでやっていってもらわないと、絶対反対はなくなるので、これは。反対は背負ったまんまたぶんやっていってもらわざるを得ないことですから、そこは放り投げて反対の人たちはどうでもいいやというようなことだけはしないで、今日聞いていただいて、たぶん反対のための反対を言っている人は誰もいなかったと思いますので、きちんと意見とかはくみ上げていただいて、12月なのかかわからないですけど、もし着工するというのであれば、それは業として背負って、きちんと向き合っていていただきたいと、最終的なことは思いましたので、よろしくお願いします。

以上ですかね。本当に今日はお疲れさまでした。以上で終わりたいと思います。

司会

あと、道津会長のほうからも一言。

道津会長

すみません、じゃあ、私も一言。本当に皆様、長時間の間、本当にいろいろなご意見を出していただいて、先生方も本当に一生懸命答えてくださいました。本当にありがとうございました。でも、最後に一言、言いたいと思います。やはり住民の気持ちを置き去りにして着工はしないでください。もっともっとやっぱり……。 (拍手) もっともっと、やっぱりこういう機会をほかの地域でもしていただいて、住民の声を拾って、真摯に聞いていただいて、そして、自分たちのやりたいことも一生懸命伝えていただいて、理解が進んだことを確認して、そして着工していただきたいと思います。それはお願いします。 (拍手)

以上です。ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。そしたら、今日はご多忙のところ、大学のほうからも皆様からもご出席いただいて、ありがとうございました。これで質問会を終了いたします。どうもありがとうございました。 (拍手)

No.	意見	自治会
01	大学がなぜBSL4の立地を坂本町とするのか、無人島など他の場所とした場合と比較してメリットデメリットを具体的に示すべきだと思います。もちろん大学にとってののではなく、周辺住民にとってのメリットデメリットです。後は起こりうる事故についてそれを具体的に示し実際起こった場合、周辺の住民にどのように連絡をし、被害者を出さないためにどういう策を行うのか、具体的に示すべきだと思います。	平野町山里
02	私は、長崎大学がBSL-4の研究をして下さることは、日本国民のみならず世界中の人間にとって、とても大事な事だと思っています。 但し、その研究施設が住宅地内にあるということには、大反対です。 しかも、近隣住民の反対を押し切った施設着工予定は12月と聞いています。 想定外の出来事は必ず起こるとするのが、東日本大地震などから私達が学んだ教訓だったのではないのでしょうか。 何事かが起こってからでは遅すぎます。長崎大学、市、県、国の責任は重大になります。 今、ここで勇気を出し立ち止まり、より良い解決策を模索すべきではないのでしょうか。	平野町山里
03	・100%安全といわれていることが納得いきません。(悪意を持ったテロの対策は不十分では) ・有事の際の周辺住民が命を守るためにすべきことなど、フローチャートを提示してほしい。 ・有事の際の周辺住民への補償を具体的に定時してほしい。	平野町山里
04	地域住民の意識について： 平野町山里自治会においては、平成27年、28年に2回の「アンケート」を実施、いずれも反対が7割を超えるという結果が出ている。 この結果は、坂本キャンパスに隣接する住民全体の意識と大きく異なるものではないであろう。即ち地域住民の総意にほぼ近いものであると考える。 昨年には、反対の署名活動を行った結果、365筆の署名を集めた。 それは違うというならば、この地域における住民アンケートを実施すればよい。 また、長崎大学は「地域住民の理解は深まってきている」と公言してはばからないが、それならば、その根拠となるものを示すべきである。	平野町山里
05	長崎大学の「説明会」について： 私自身、何回もこの「説明会」という現場に足を運んでいる。 その結果は、 いかに安全な施設か、という説明に終始して、決して潜在的リスクには触れようとしない姿勢。(いわゆる安全神話) そして、住民からの質問に対しては高圧的で、脅しとも思われるような姿勢。 「浦上の人たちは原爆を乗り越えたのだからエボラも乗り越えられる」 「坂本に造るのがだめなら大学も病院もすべて移転することになる」 「これだけ説明しているのに、あなた方はどうして理解できないのか」 これでは、何百回やっても、住民の理解は決して深まらないし、合意も得られないであろう。	平野町山里
06	概算要求について： 10月18日付新聞で、BSL4施設計画に関して、2019年度概算要求に30億5千万円が計上されたとの記事があった。 (既に今年度は12億8千万円の予算が付いているとの事) 地域住民との合意形成がきちんとなされてから、その後に予算を取るべきであって、この点、明らかに順序が違うと考えるが如何か。 長崎大学は、そもそも住民の理解や合意など念頭には無く、自分達のスケジュール通りに計画を進める事しか考えていないのではないか。	平野町山里

No.	意見	自治会
07	<p>情報公開について： 地域連絡協議会における委員からの質問とそれに対する長崎大学の回答を聞いて愕然とした。 既存のバイオ施設に関する情報公開請求についての質疑応答である。 情報公開請求に対して、大学側が100パーセント黒塗りで対応していた事実についての質問がなされていた。 それに対する長崎大学の回答は一言でいえば「これでいいのだ」というものだった。 エボラなど最も危険なウイルスを扱うBSL4において、地域住民の安全に必要な情報公開というものが有名無実となる事を危惧する。 長崎大学は世界最高レベルの施設を目指すと言っているが、何が世界最高か？と言いたい。</p>	平野町山里
08	<p>チェック機能について： 長崎大学は、BSL4施設計画の基本構想において、“大学内部”に「バイオセーフティ管理官」を置いて、施設のチェック・管理を行うとしている。 そしてバイオセーフティ管理官の任命権は“学長”であるとの事。 これでは、内部からのチェックに過ぎず、地域住民にとっては全く納得できないし、安心できるものではない。 これもやはり、世界最高レベルが聞いてあきれではないか。 そもそもいまだ、この様な施設に外部からのチェック機能を入れるのは世の中の常識である。 事実、田上市長も地域住民との対話で、外部からのチェック機能について、その必要性があると発言している。 地域住民にとって、施設の安全を担保し安心を得るために、外部からのチェック機能を果たす第三者機関は、最低限必要なものであると考える。</p>	平野町山里
09	<p>BSL-4研究施設建設に反対の声を上げて、早3年数ヶ月 平野町山里自治会をスタートに上野東部自治会、山里中央自治会と近隣自治会住民の声を無視して、本年12月建設に長崎大学は、世界で一番危険度の高い研究施設を建設に踏切ろうとしている河野学長、調副学長、両人の態度に強い憤りを覚え、強く反発し勝ち抜く覚悟です。 病原体の漏出など深刻な事故が起きた場合は、多くの人の命や生活に重大な被害を及ぼす可能性があることに間違いありません。 大学側は建設計画を破棄し、今までどおりの市内の豊かさを住民は願っております。</p>	平野町山里
10	<p>大学側は特に最近“住民の理解が進んだ”との見解を述べる事が多くなったと感じている。 何の根拠をもって、一般市民の理解が進んだと考えているのかを問いたい。 説明会の回数を盛んに広告しているが、その回数が一般住民の理解を得られた事と比例するものではない。 市民の声を聞くことなく(例えばアンケートなど)大学側の都合に合わせて理解が進んでいる云々.....とのすり替えは、言語道断だと思う。</p>	平野町山里

No.	意見	自治会
11	<p>BSL4設置ありきの丁寧な説明を重ねて要請してもダメなものダメだ。 ことの進め方、やり方に誠実さが無い。卑怯だ。</p> <p>調学長補佐が学長になるための業績の1つの道具としてBSL4設置をしているだけだ。 住民の世代間を超えた命を犠牲にしてはならない。 住民がイラナイと明確に心の表出をしているのだから イラナイのだ！</p> <p>専門家、外国人、研究者が安全性を訴えても無駄だ！ 住民ではない！ 第三者目線の主語が第三人称の話だ。事故が起きても自分の身には何も感染しない、 困らない人たちの安っぽい言い分にすぎない。 困るのは 住民だ！ 住民はイラナイと言っているからイラナイのだ。無理矢理にするな！ 命も健康も国は元に戻すことはできません。だから責任はとれません。だから設置しては ならないのだ。</p> <p>すみませんと誤っても、元にもどりません。想定外でしたは聞きたくありません。 人間のすることには全て限界があり ヒューマンエラーが必ずあります。 絶対 安全はあり得ません。だから スルナ！ 住民の困らないところでしなさい 調がそこに行けよ！ 調を辞めさせろ！ 何のキックバックがあるのか 次の学長か？ 調に策を労させるな。</p> <p>河野学長、調は住民ではない。怒の精神のかけらもない。 原爆犠牲で十分だ。BSL4犠牲にはなりたくない。 そのための 1st advantageは 設置しないこと。それだけでいい、単純だ！</p>	平野町山里
12	<p>大学の近くに住んでいる者です。これからも安全と安心の中で生活したいです。 100%の安全はない施設なのに住宅地や住民の安全を第1に考えて、十分離れた所に 建てる事は考えていなかったのですか。</p>	山里中央
13	<p>BSL-4での事故は、過去起こっている（旧ソ連、ウクライナ）、エボラウイルスで事故が 起こった場合は、治療法がない為、封じ込めが必要となる。その際、長崎大学周辺には 住宅地が密集する為、非常に不利な立地条件と思われる。</p>	山里中央
14	<p>何故、こんな住宅地にBSL-4施設を造らなくてはいけないのか？ 何度大学から説明をされても、全く納得できない。</p>	山里中央
15	<p>住宅地近くに、施設を建設する意図が、未だ全く理解できません。 大学側が見切り発車をしようとする背景を明かして欲しいと思います。</p>	山里中央
16	<p>立地場所について、国・県・市などから坂本地区以外のところと云う話は出てこなかった のでしょうか。交通の便、病院の側(そば)と自分たちの事だけで、周辺の住民の事を 考えていない。</p>	山里中央
17	<p>医学部周辺には、多くの医療関係者が居住し、彼らの中には、反対の声を上げにくい 立場の人が多数居る。</p>	山里中央

No.	意見	自治会
18	1) 危険対策を自身から認める長崎大が何故住民人口が多く、住宅密集地である江平、平和、本尾、坂本地区に危険施設を建設するのか？ 一住民として全く理解できない。狭い坂本キャンパスにではなく、安全な広い地域、長崎県だけではなく、他県、他国に本当に国にとって必要なら、熟研まで含めて移転を考えた方が、長崎大にとっては得策ではないか。 2) 長崎大学の今迄の説明は余りにも雑すぎる。自身からの事ばかり中心の説明で住民、市民、県民のことは考えてない。事故対策のみ、それも自身の事故対策（長崎大学病院が近い）のみで、私としては、事故がおきてからでは遅すぎる。必ず事故は起きる事が、自身から認めた説明である。	山里中央
19	運悪く、現在 妻が長崎大学病院へ入院中ですので、コメントは差し控えさせていただきます。いつもお世話に相成っております。ありがとうございます。	山里中央
20	できれば自宅のある、この平和地区に危険な施設を作ってほしくないです。できてしまうと、この先ずっと不安をいたいたまま生活していくことになります。最近の異常気象による自然災害は想定外の被害をもたらしているの、何が起こるか分からないのが心配です。麻疹や風疹や結核でさえも、予防できていないこの国なのです。情けないと思います。	山里中央
21	・今夏のような猛烈な台風や予想外の長時間の停電等、絶対無いとは言えない災害時、あるいは人為的な取り返しのつかないミスが起こった時の対策はどうしてあるのか。 ・風評被害が起こった場合は？ ・住民の声をちゃんと聞いて、判断してほしい。大学の都合が優先されすぎだと思う。	山里中央
22	万一、事故や病原体の漏洩が起きた際の対応や、保障について(地域住民に対しても)、マニュアルなどは出来ているか？	山里中央
23	今の日本は地震や大雨による水害、土砂災害、猛暑による異常気象など、災害が多発しており、想定外の事が起こる可能性は誰が考えても起こりうることである。その時、どのような対応がとれるのか？ 私たち地域住民の命は保障されるのか？ 私たちに分かりやすくきちんと説明してほしい。絶対に安全か、知らせる事は義務であるのでは？	山里中央
24	住民の健康被害や環境汚染などに対する損害賠償などは、市と話し合っているのでしょうか。	山里中央
25	山里中央自治会は、2015年の7月末にアンケートを取り、回収率93%で反対78%でした。アンケートの中で、住宅密集地に建設に対する不安の声がとても多くありました。建築基準法に動物実験の建て物は、住宅地そして住民の同意が必要となっているのではないですか。WHOや日本ではどのような決まりがあるのか教えてください。	山里中央
26	大学内の施設予定地の伐採が終わり、市に建設許可を出して、12月末にもでも着工したいとニュースに流れていましたが、住民無視にもはなはなしいですが、住民の理解を得たという事ですね。	山里中央
27	今の世の中、想定外の事ばかりである。BSL-4で想定外の事が起こったら、どうなる？長崎は国から封鎖されるのか？	山里中央

No.	意見	自治会
28	危険性が高いBSL-4施設を住宅が密集している場所に建設する理由がわかりません。この場所でなければならぬのでしょうか。住民が理解できる説明ができるのでしょうか。住民、また観光に訪れるたくさんの方々が被害を受ける可能性があるという事を第一に考えないのでしょうか。不安な日々を送る住民に絶対事故が起きないと言えるのでしょうか。近くにこの施設があると知って、観光に訪れる人が少なくなるかもしれません。施設が必要だとは思いますが、住民が安心して過ごせるように、住宅密集地以外に場所を考えていただけると是非、お願い致します。	平和町
29	動物実験(BSL3)から人体バイオセーフティーレベル(BSL4)に日常的に扱っていないウイルスを適切に出来ないのでは？エボラ熱、ラッサ熱、天然痘などの危険度の高い病原体であり、感染症でもあるのになぜこの観光地で修学旅行生も多い場所でないといけないのか。もっと僻地にすべきではないかと思う。先生方、研究者の方々も、未知への研究には、余りにも、この場所では危険であると思う。この計画には絶対反対致します。	平和町
30	住宅街に作る必要はないと思う。	平和町
31	BSL-4のとなりに家族を住ませられますか？出来ないのなら作ってはだめだと思います。	平和町
32	どうして住宅地に建てる必要があるのでしょうか。利便性ばかりを言っているとしか思えない。「住民の安全を考えての立地です」と言えるのが、人を救う研究者としてのあり方ではないですか！！	平和町
33	この恐ろしいエボラ熱などの感染症が近くで研究されるのかが理解出来ません。考えただけでも頭が痛くなり夜も眠れません。人口が少なくて安全な所がもっと他にもあるのではないのでしょうか！	平和町
	平和町住民	
34	他にもっとBSL-4施設の建設に適している場所はないのでしょうか？	平和町
35	エボラ熱に関しては、国外から国内に帰国した方が、感染したと聞いたことがあり、恐ろしい事だと思っていましたが、まさかすぐそばでその研究が行われるとは思っていませんでした。怖い、恐しい恐怖です。子供達や孫達のためにも絶対に反対致します。	平和町
36	100%安全でないかぎり、作らないでほしい！！	平和町
37	安全基準や法律で厳しく制定され、何重にもバックアップされた原発でも事故が発生する中、厳しい安全基準や管理システムがなく危険な施設を多くの住民が済む町中に作るという非常識な学者や、役人に安全意識は乏しく事故は必ず起きる！！原爆が起こったようにマスコミにより大きな風評被害が発生する。地価下落、被害者への保証は？	平和町

No.	意見	自治会
38	<p>2018. 10. 16発表 アフリカコンゴ民主共和国で8,000人を超える接触者、登録医療不足専従者からも発症し、年齢及び性別の情報の判明は194名確定し、そのうち3人が死亡、保健者、W.H.O.、及びパートナーは影響を受ける地域、コンゴ共和国の他、近隣諸国で引き続き注意深く監視し、全てのエボラ警報例を調査している。 治療もままならない状況の中で、長崎での、この地域での研究は、危険であるうえ、安全に対し不安が大きすぎる為、あってはならないと思う。 断固としてエボラ研究に反対します。</p>	平和町
39	<p>長崎の原爆は、この地域であり今もなお苦しみは生涯続いている。 今度は、又、未来にむけての不安を次世代への苦しみとさせてほしくない。 地域住民の怒りも理解すべきだと思う。 なぜここなのか。何らかの忖度があったとしか思えない。</p>	平和町
40	<p>平和町自治会として、生命にかかわる危険なBSL-4施設の建設について声を上げないことに全く納得がいきません。 自治会役員の個人的な考えで、議論しないというのは住民をばかにしています。 住民の意見を聴いて、協議会上げて下さい。</p>	平和町
41	<p>新聞、テレビ、チラシetcの情報でしか認識していません。 関心が無いといえ、そうではありませんが、集会などに出向くまでには至りません。 平和町自治会では、この件に関しては何のお話も聞いたことが有りません。 私も理解不足で申し訳ありません。</p>	平和町
42	<p>平和町自治会は会長、副会長が賛成派なので、住民全員に賛成意見を押し付けている。 住民1人1人の賛否意見を取り上げるべきではないだろうか。 このままだと平和町は衰退してしまうと思う。</p>	平和町
43	<p>平和町の自治会が、何の行動を起こさないという事は、役員の中にBSL-4施設に関係のある仕事を請け負う人達が居るのかしら、それとも、自治会への補助金等の話があるからなのかと変に思っています。</p>	平和町
44	<p>BSL-4施設について質問： 市街地で、又、世界各国からの観光でんがさきに来る人々に対しての配慮等を考えての結論だと思いますが!!! 何故、他外な場所(ウイルスなどの飛散を食い止める最小な所、坑道など)は思い描く事が出来なかったのですか？ ◎構想は全体を思い浮かべて描くこと、大事では。</p>	平和町
45	<p>何度も繰り返しの疑問となっている事項と思いますが、 先ずは、こういう問題を地元住民に説明もせず、勝手に知事・市長が決めてしまう事が理解出来ない。 又、この施設を建て、エボラウイルスを研究することは我々地元住民だけの問題ではなく、市民・県民にも周知し見解を問う必要があるものである。私の周りの知人等に話をしても、ほとんどが知らない。知らせない(気かけさせない)理由は、市民・県民が詳細を知れば、大掛かりな反対が起こるからだろうと考える。</p> <p>次に、建物や警備に関して、安全性を主張するが、完璧な安全など到底実行できるものではない。 ・建物に関しては、設計上十分に安全としても、作業者はそこまで考えていないし、経年による劣化は止めたり完全に復旧できるものではない。 ・管理・運用に関しても、昨今の公務員や企業による改ざん・不祥事を見れば、安全と主張する側を信用出来ないのは明らかである。</p> <p>エボラの研究をしたければ、研究者が現地に行って行えば良いことで、その研究は国のレベルで行う事で、一大学の名誉や長崎の名をあげる等のことで行う事では決して無いものだと進言する。</p>	平和町

No.	意見	自治会
46	残念ですが、もはや建設中止が不可能であるのならば、「近隣住民への配慮」は検討しないのか！！という条件闘争にシフトしていく時期かもしれません。例えば「医療費割引」など… しかしながら、住民感情無視の当局姿勢にはギリギリまで厳しく対峙していくことは必要不可欠です。	平和町
47	万が一、事故(緊急事態)が発生した時、どの段階で近隣住民に知らせるのか？ そして、連絡方法は？	平和町
48	エボラウィルスの遺伝子操作を明言されている様ですが、長崎は核兵器はNOなのに、細菌兵器になり有る物はYesなのですか。 もし何かあっても国は西の最果ての地の事なんか切り捨てるつもりなのですか。(なのでしょう)	平和町
49	説明が不十分すぎる！！	平和町
50	エボラウィルスはインフルエンザウイルスより感染率が低いと、大きい声で言われているが、致死率はどうなのか明確な数字を同じような大きい声で言って欲しい。	平和町
51	建設予定の周辺に居る人への配慮はどうなっているのか。	平和町
52	<p>近隣の自治会員です。 過去に浦上は、国策で二度に渡って人々がこの地から居なくなりました。 一つは、禁教令によって浦上村から3,500人が西日本各地に流配されて行ったのです。 二つ目は、原爆により8万人という尊い命が一瞬にして奪われました。 その中で、私の祖父母、おじ、おば、含め家族15名も犠牲となったのです。</p> <p>私達の残された人生、そして子々孫々に渡ってBSLの恐怖に怯えて生きて行くことは、とても耐えられません。 長大は長崎市民にこれ以上、三度目の恐怖を与えず、安全な場所を真剣に検討すべきです。 国立長崎大学は、この件を押し通すことになれば、生涯に渡って汚点を引きずる事になると思います。</p> <p>大学は、市民・近隣住民を中心に誠実に説明責任を果たしていると言っていますが、大学側の説明会場に来られる殆どの方は、反対の意志を持った人達だと聞いています。 大学は、説明会を開くたびに、住民から理解されたという実績作りに利用していると思えません。大学関係者の心は痛まないのですか？ 既に、16,000人以上の反対署名が明確になっているのです。 今だに、大学側が一番大事な市民の合意と理解と信頼を得ていないのですから、坂本キャンパスのBSL-4建設は撤回すべきです。</p>	上野東部

No.	意見	自治会
53	<p>色々なリスクに対して、絶対安全・安心と言われておりますが、何を根拠に言われているのかわかりません。</p> <p>世界では従事者の、感染者は数名そのうちの針刺し事故で2名亡くなっているとのこと。確かに少ないといえ少いのかもしれないが、この長崎で1回でも起こったら大丈夫とは言えない。国も直ちに対応してくれるとのことですが、大事に至ってから何をしてくれるのでしょうか。どういう対応があるのでしょうか。</p> <p>コンゴで広がっているエボラ出血熱が感染拡大の恐れがあるということで、アメリカの専門家チームが、安全上の懸念を理由に、最悪の被害が出ている地域から退避したというニュースもありますが、どうお考えでしょうか。それだけ危険なウイルスを持ち込もうとしているわけですが、見解を教えてください。</p> <p>施設見学で武蔵村山の施設にもゴキブリがいたとのアンケート結果があります。何処から入ったのでしょうか。菌を持ち出しませんか。空気感染はしないから大丈夫ということですか。</p> <p>人間のなすことに絶対はあり得ません。私たちには高齢になり、この地しか生活の場所はありません。また未来ある若者の前途を奪われかねないということはないのでしょうか。この住環境が整ったこの場所に本当に大丈夫なのかということも、もう一度再考して頂けませんでしょうか。</p> <p style="text-align: right;">扇町在住 60代女性</p>	扇町
54	<p>長崎大学は、自ら説明会として南部地域の単一自治会等へ出向く意思はあるのか？</p> <p style="text-align: right;">椎の木町第一自治会長 山下 好丸(よしまる)</p>	椎の木町第一
55	<p>長崎大学学長様へ 平成30年10月27日</p> <p>『BSL-4施設設置計画』に関する意見と質問</p> <p>私は、長崎市南部の斜面地にある南町に住み、自治会役員他、微力ながら活動しております。</p> <p>本日は、長崎大学による、『BSL-4施設(以後、施設と言う)の坂本キャンパス内設置計画』について、河野学長ならびに片峰前学長へ是非ともお伝えしたいことがあります。</p> <p>本年8月から9月に掛け、南町自治会において「南町自治会関係による施設設置の是非に関するアンケート」を実施しました。加入総世帯数120世帯のうち93世帯より回答がありました。</p> <p>結果は、《施設を設置して欲しいが13世帯》《施設を設置して欲しくないが36世帯》《どちらとも言えない、判断できないが42世帯》となりました。</p> <p>次に、アンケートに添えられたご意見は下記の通りです。</p> <p><input type="checkbox"/> 設置賛成の方のご意見はありませんでした。</p> <p>《設置反対する方々のご意見》 11世帯より</p> <p><input type="checkbox"/> 福島原発事故でも分かるように、『絶対安全な施設』と言う『安全神話』は間違いです。何かあってからでは遅いし、『想定外』と言って処理されそうで怖い。また、施設内で何か起きてても隠蔽されそうで心配です。</p>	南町

No.	意見	自治会
55	<p>坂本地区は、子供を育てる環境が良い場所であり、通わせたい学校もあるのに、その校区周辺にこのような施設が出来ると聞いてからは、魅力を感じない町になった。</p> <p><input type="checkbox"/> 近年、非常に大きな災害が続く中に、何が安全なのか分からなくなっている。しかも、『世界最高に危険度が高いウイルス』が身近にあると思うと不安で堪らない。設置は止めて欲しい。</p> <p><input type="checkbox"/> 『世界最高に危険度が高いウイルスを持ち込んで研究する施設』なんて、狭い長崎にはとても無理でしょう。どこか、無人島にでも設置した方が良いと思います。</p> <p><input type="checkbox"/> 安全神話はまやかします。この世の中に、『絶対何々』と言うことはないと思います。</p> <p><input type="checkbox"/> 居住区の近くは、『絶対ダメ!』です。人里離れた所へ設置すべきです。</p> <p><input type="checkbox"/> 子や孫の将来のためと言うなら、逆に、こんな危険な施設を設置するべきではない。</p> <p><input type="checkbox"/> 私個人では反対であるが、近隣住民の多数のご意見に賛同したい。</p> <p><input type="checkbox"/> 近隣常民や市民が不安視する中に設置したら、未来の長崎にとって良い結果は得られないと思う。</p> <p>以上、多数のご意見の中から抜粋しました。</p> <p>《どちらとも言えない、判断できない方々のご意見》 2世帯より</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症自体の詳しい内容がよく分からない。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設としては必要なものと思われるが、地域住民としては不安なことも多々あると考えられるので、どちらとも言えない。</p> <p>アンケート結果について、私の思いを述べさせていただきます。</p> <p>回答率、77.8%のうち、『設置賛成が約14%』『設置反対が約40%』『どちらとも言えないが46%』と言うことは、半数ぐらいの市民は『施設に関する情報が理解出来ていない』ことになりす。</p> <p>これは、学長言われる「これまで100回ぐらいの説明会等を開き、市民への説明をして来た」ことが、『余り効果を得られていない』ということにもなります。</p> <p>また、設置賛成が14%だったこと、さらに、40%近くが『設置反対』を示され、コメントも多数出されていることから、『市民との合意が得られていないことを証明できる結果』だと言えます。</p> <p>要するに、近隣住民や市民が訴えている『施設設置に対する、合意と理解は得られていない!』となります。</p> <p>また、田上富久長崎市長は、『施設設置に関するアンケートや市民との合意と理解を得る作業』は長崎大学が行うべきだと言って、市民の声を無視し続けています。</p> <p>そこで、以下の質問をさせていただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上記に挙げた『南町自治会アンケート』の結果について、真摯な回答を頂きたい。 2. 『国策』として設置するのであれば、長崎市に代わって正々堂々『長崎市民への設置に関するアンケート』を実施して、施設の必要性を問われるべきではないか？ 3. 過去には、東京都にある感染研(旧理研)が移転する際に、内部の研究者により施設の危険性が指摘され、地域住民と共に『設置反対』を問う訴訟が行われました。長崎には、感染研で研究しているレベルを遥かに超える『P4』レベルの施設なので、仮に設置された場合、その後に『稼働停止を求められるような状態』になると考えられます。よって、一旦、計画を白紙に戻し、『近隣住民と市民との真摯に向き合い話し合うこと』から始めるべきです。如何ですか？ <p>以上、私の意見ならびに質問といたします。</p> <p style="text-align: right;">南町自治会副会長 永石 光浩</p>	

平成30年11月28日

「大学への質問会」を終えての感想

山里中央自治会会長 道津靖子

10/27の「大学への質問会」は、大学に住民の皆さんがBSL-4施設建設についてどう思っているか生の声を聞いていただいたわけですが、河野学長にもBSL-4の最高責任者の立場として何とか予定を調整して参加していただき良かったと思いました。

質問内容としては、当日も事前に提出された意見と質問でも、「なぜ住宅密集地に、BSL-4施設を建設しないとけないのか？」立地についてかなり多くの質問となりました。しかし、大学からの回答に納得できた住民はいるのでしょうか？

2年前からの地域連絡協議会で議論していた大学側の回答をそのまま答えるというおそまつな回答は、住民に納得してもらおうという気持ちは無く、大学側の説明を押し付けるものだったと感じました。坂本キャンパス以外の候補地の比較検討の質問に対する答えも同様、全く住民にきちんと説明できませんでした。住民が求めていることを説明できなくて、どう納得しなさいというのでしょうか？後日、感想を聞きましたが納得できた住民はいなかったようです。

大学は、地域との共生をしていくつもりなら住民を置き去りにしないでください。着工の前に、BSL-4の理解を得られるように努力する、努力した後アンケート等で住民が納得したことを証明してください。BSL-4施設は、地域への被害の可能性がある事象として100以上の項目ある施設です。建設するにあたり、住民への配慮としてその事業主体である大学がすべき必須工程だと思います。

11/13に経済団体と医療団体の16団体から提出された要望書の中には、しっかりと「BSL-4施設建設について、住民を納得させてください」との要望もしてあったようです。

今後禍根を残さないためにも、住民の不安に真摯に向き合っていたきたいと思います。

以上

質問会を終えての意見書

平野町山里自治会副会長 高谷 智

質問会全体を通して、長崎大学は、地域住民の疑問や不安の声に真摯に向き合ったとはいえず、従来の説明を繰り返す姿勢に終始したと思う。

自分達は安全な施設を造るのだと、これだけ説明しているのだから、あなた方住民はそれをよく理解して考えを変えなさい、と言いたいのであろうか。

「反対が何パーセントになったら着工するのか？」という住民からの質問に対して大学側の回答は「何パーセントという答えを持ち合わせていない」(出席の4名中3名)というものであった。このやりとりが大学の姿勢を象徴しているのではないだろうか。以下、質疑応答に関して意見と質問を述べる。

① 立地について、なぜ坂本キャンパスか？

住民からは冒頭、どうして住宅密集地である坂本キャンパスに造るのか？という意見が相次いで出された。

この住民の疑問に対して大学側は、

「我々が坂本医学部キャンパスにこの施設を設置する理由ですけれども、いつも説明させていただくことなのですけれども、一つは、もともと熱帯医学研究所、それから医学部がごぞいます。多数の感染症関連の研究者がいます。(中略)さらに、大学病院がすぐ近くにごぞいますので、施設の中で何かあった場合も、例えば実験者が針刺し事故等あった場合も、当然すぐに隔離して治療を開始するのが、周りにも感染を拡大させないということで非常に重要なのですけれども、大学病院にはそういった患者さんを収容するための隔離病床がごぞいます。」(安田氏)

これまで何度も聞いてきた説明である。しかしながら、実験中の針刺し事故に対応するとは、研究者の安全・生命を守る事が最優先されており、大学側の論理ではないのか。

また、大学は長崎でエボラの疑いのある患者が出た場合にも対応できるとも言う。けれども、現実としてそのようなケースが起こる可能性は極めて低いのではないのか。

結局、立地に関して大学の言っている事は、先ず坂本という結論ありきで、理由は後付けではないかと、多くの住民が感じていると思う。

② アンケートについて

地域連絡協議会において、山里中央自治会の道津会長は住民アンケートを取るべきと繰り返し主張している。しかし、大学側はこの提案を一顧だにしないで、却下し続けている。

質問会において、このアンケートに関して大学側は、

「アンケートにつきましては、我々、長崎大学単独で判断するのではなくていろいろな関係機関や有識者の方々にもご意見を聞きました。中で我々の心に一番響いたのは、どうせあんたたちがアンケートをやったって誰も信用してくれないよというような厳しいご指摘もありまして、そういう意味で、我々としましてはアンケートをするのは今まで控えてきているところでございます。」(嶋野氏)と述べている。

アンケートを控えていたとは、よくも言えたものである。

それならば、住民と協力して、これからでもアンケートを実施すればよいと考えるがいかがか。

③ 平和町自治会について

平和町自治会の方々からは、自治会長が住民の声を聞いていない、自分達の意見を言う場所がない、といった不満の声が噴出した。

これに対して大学側は、「私の立場から自治会にああしてくれ、こうしてくれというのはなかなか申し上げる立場にないのですけれども。」(調氏)との回答であり、議論はかみ合わなかった。

この点については、地域連絡協議会でも議論が続いているが、今もって結論が出ていない。

協議会に一度も出席しない連合会長しかり、自治会内の声を吸い上げていない自治会長しかりである。

この件に関して、私は、地域連絡協議会において、これら地元住民からの公募委員を募り、問題に対応する事を提案する。

すなわち、現在の自治会長に加えて、平和町や坂本から公募委員を選出すれば、地域住民の意見が協議会に反映されるようになるかと考える。

なお、選考にあたっては、協議会内で情報共有するなど、公平に選出されるしくみが必要である。

④ 住民の抱えるストレスについて

質問会では、住民からストレスについての意見も多く出た。

「私たち近隣、周りの住民が、もしあの施設ができた場合、毎日ストレスを抱えて生活する。寝ても覚めてもあの建物がある。そういう不安な生活は、私たちは過ごしたくありません。」

これに対する大学側の回答の中に

「(中略) 私は以前から、別にこの施設の中に私の住居を造ってもらえるんだったらこの施設の中にも住みますというのをずっと申し上げております。それだけ安全に関しては自信を持っています。」(安田氏)とあった。

住民の抱える不安に対し、あまりにも配慮を欠いた発言と思うがいかがか。

質問会前日 10 月 26 日の地域連絡協議会において、万一の事故を防ぐために研究者のストレスをいかにして軽減させるか、について議論がなされた。

研究者のストレスについては重要テーマである一方で、住民のストレスは顧みられないという事なのか。

大学は、仮に施設ができた時に住民の抱えるであろうストレスという重大な問題について真剣に考え、このような住民の気持ちに真摯に向き合うべきではないのか。

⑤ 炭疽菌について

住民から炭疽菌を研究するか否かの質問もあった。

「それからもう一つ、炭疽菌の研究も行うこともありますと、前の学長が言いました。これは空気感染しますよね。過去にソ連で六十数名の方が亡くなって、4キロ先の家畜まで死んでしまったと。そういうふうな事実があるわけですが、これも研究しますか。いかがですか。」

これに対する大学側の回答は、

「炭疽菌というのは、もともとは BSL3 の病原体というのはたぶんご存知かと思います。(中略) そういう意味では、基本的には炭疽菌の実験は行わないです。ただ、何かテロみたいなのが起きて、BSL4 施設でそういったものを研究しないと国民の安全が確保できないというような状況になった場合には、それは可能性がないとは言えないですけども、あくまでも原則としては炭疽菌を扱った実験は行わないと申し上げたいと思います。」(安田氏)

長崎大学は、将来において、炭疽菌を扱う事を否定しなかったのであり、これは非常に大きな問題である。

炭疽菌は、BSL4 施設計画の研究目的、すなわち人道的見地や国際貢献にはそぐわないのではないのか。

仮に言われるような、テロ等の理由により、国として対応する必要性が出てきた場合は、それはしかるべきところで研究すればよいのであって、長崎大学が行う事ではないと考えるがいかがか。

⑥ 情報公開、及び外部からのチェック機関について

私は、地域住民の安心を得るための、最低限のこととして意見・質問したのであるが、結果として全く議論がかみ合わなかった。

大学の言う「世界最高水準」とは何なのか。単なるお題目なのか。

情報公開もしない、第三者機関も必要ない、というのであれば、長崎大学はそもそも BSL4 施設を持つ資格がない、と言わざるを得ない。

(まとめ)

長崎大学はこの BSL4 施設計画に関して、社会的責任、特に地域社会に重大な責務を負っていると考えます。

加えて、本計画は国からの補助金、つまりは我々の血税で行われるのであるからその責任は更に重い。

けれども、今日に至るまで、長崎大学が地域住民と正面から向き合い、信頼関係を構築してきたとは到底思えない、というのが私たち住民の率直な気持ちである。

質問会后、マスコミ取材に対する大学側の「(施設建設に際して) 住民の合意は前提だと思っていない」(調氏) というコメントが、長崎大学の地域社会への向き合い方を表していると思う。

余談であるが、平成 25 年 2 月に長崎市内で発生し、5 名が死亡、7 名が負傷をしたグループホーム火災について記したい。

この火災事故で、原因とされた加湿器の製造会社、TDK 株式会社のとった行動は次のようなものであった。

- ・ 事故直後に同社社長の上釜氏が（本社所在地の東京ではなく）長崎市内において記者会見を開き、謝罪を行った事。
- ・ 被害者及び遺族への十分な補償を行った事。
- ・ その後も、テレビ・新聞等に広告宣伝費を投じて、製品のリコール（回収）を行っている事。

（なお、ここでいう広告宣伝は、長崎大学が行っているものとは、本質的に異なるものである事を付記しておく。）

企業はその社会的責任をどのように果たすべきか、という問題について考えるとき、同社のとった行動は評価に値するものであろう。

そして、当時社長であった上釜氏は長崎大学の卒業生であった。

この事は、偶然ではあるが、長崎大学のOBが母校に対して、その社会的責任についてどうあるべきか、指し示しているとも思えるのである。

以上、長崎大学からの誠実な回答を希望する。

大学との話し合い（H30.10.27）時における問答について、再度質問を行いますので、ご回答をお願い致します。

問1 『エボラ』は、

- ① 治療が行われない患者は、発症から10日で死亡する。（ザイール株）
- ② 防御服に付着して病院で自然乾燥した場合、14日間の感染力がある。
- ③ エボラで死亡した人の体内では、死後7日目もウイルスの感染力がある。
- ④-① また、ギニアの男性で治ったとされていたのに、ウイルスが体液に500日以上残留し、10人が感染し8人が死亡している。（平成26年・・・2014年）
- ④-② 別の地域の男性は、治癒してから470日後に感染させたとあります。（リベリアの妻へ）と、最強のウイルス。

これには答えがなかったので、知っているのかどうか再度質問します。
(④-①、④-②は、医者から治ったと言われて自宅で起こった事であり、1年半位も体液に残っていたとの事である。)

問2 大学は、『社会の安全・安心を確保する事を目的とする』と説明していますが、驚いたことに大学は、『ウイルスは漏れることもある』と、はっきり言っています。どういふことでしょうか。

答 『大規模な事故が起こった時、60度で死滅し100・200度で灰となる又、建物からふわふわと飛んでこない』と、

そんな答えは当たり前で、ウイルスが漏れる状況は、研究者の感染・持ち出し、盗難、動物等のあらゆる生物の感染及び排煙からの感染等が気になるのである。

問3 このようなものを何故、『住宅密集地』に造るのですか。私たち住民に死ねと宣言している事と一緒に思いますが、いかがでしょうか。

これには答えがなかったので、再度質問をします。

問4 日本学術会議の結論で、『住民の合意』を取り 建設をするようにとありますが建設学会のガイドラインにも『商業地や住宅地は避けるべき』と書かれている。

これには答えがなかったので、再度質問をします。

問5 それから前学長は、『炭疽菌を扱うかも相談して決める』とも言っています。空気感染する生物兵器・・・旧ソ連で、4km県内で66名死亡、家畜50kmで感染

答 非常時に研究すると・・・

将来的には扱うことがあるということなのか、お答え下さい。

「大学への質問会」を終えて思うこと

平野町山里自治会 神田京子

今回の質問会は、大学と住民との膝詰めの話し合いということが、これまでの大学の説明会とは大きく異なっており、それを大学が応じてくれたことにより、意見の異なる両者の立場を越えた人と人との血の通った理解が出来ればという思いがあったのは確かでした。

甘いと言えば甘い考えだったのかもしれませんが、3年余りの間に訴えてきた住民の思いが少しは伝わっているのではないかと考えていました。しかしながら、そのささやかな期待はもの見事にはずれてしまったと感じました。

集まって下さった方々、出席出来なかった人の中には、声を上げたくても、どうしたら自分たちの思いを伝えることが出来るのか悶々と悩んでおられる方達が多くいらっしゃいました。その方たちが切々と話し、或いは気持ちを綴って意見書を託して下さいました。

当日の大学の話は、いつもの説明会でした。50名余りの住民を前にしてもどうしてあれほどまでにクールな発言が出来るのか、とても残念に思いました。

意見書については、これから提出致しますので、研究者であると同時に、人として相手の立場になって、真摯な気持ちで思いを読み取って下さい。声を上げているのは、大学の皆さんと同じ命のある人間なのですから。

以上